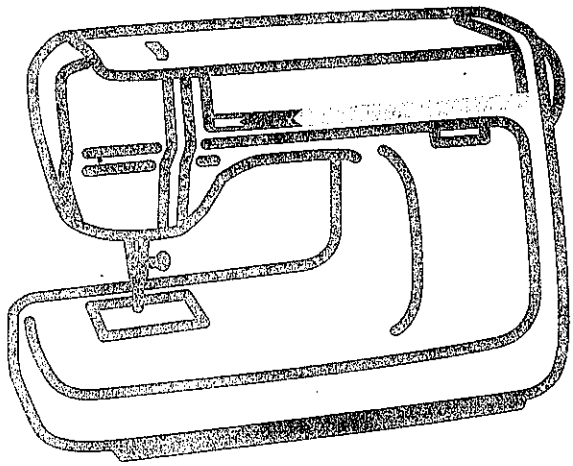
コンピュータミシン

使い方の手びき

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

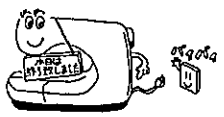
絵表示の例

⚠	⚠記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
⃠	⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
❗	❗記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

⚠警告 感電・火災の恐れがあります。

❗ 一般家庭用　交流電源　100 Vでご使用ください。

以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

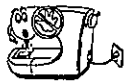


⚠注意 感電・火災・けがの原因となります。

⃠ 【禁止】 フットコントローラーの上に物をのせないでください。

⃠ お客様自身での分解はしないでください。

⃠ ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。



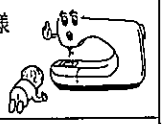
⃠ 【禁止】 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。

⃠ 【禁止】 曲がった針はご使用にならないでください。

❗ 針及び押さえは、確実に固定してください。
又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。

❗ ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

❗ お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。



❗ 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき
・上糸・下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき

❗ ミシン・フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目　次

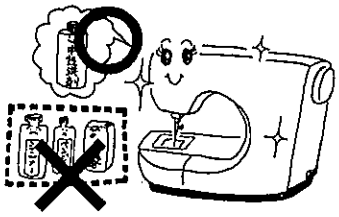
●お取り扱いについてのお願い 2
●各部のなまえ 3
　★早見表 3
●補助テーブルと標準付属品 4
●電源のつなぎ方 5
　★スタート・ストップキーを使用する場合 5
　★コントローラー（別売品）を使用する場合 5
●速さの調節のし方 5
　★スタート・ストップキーを使用する場合 5
　★コントローラー（別売品）を使用する場合 5
●キーの主なはたらき ..... 6～7
●下糸の準備をしましょう ..... 8～9
　★糸こまをセットします 8
　★ボビンをとり出します 8
　★ボビンに糸を巻きます 8
　★ボビンをかまにセットします 9
●上糸の準備をしましょう ..... 10～12
　★上糸を掛けます 10
　★糸通しの使いかた 11
　★下糸を引きあげます 12
●直線縫い ..... 13～14
　★縫いはじめ 13
　★縫い方向をかえるには 13
　★縫い終わりの返し縫い 13
　★縫い目のあらさを変えるとき 14
　★針落ちを変えるとき 14
●直線状の縫い目いろいろ 15
●糸調子の合わせ方 16
　★自動糸調子 16
　★マニュアル糸調子 16
●針板ガイドラインの利用 17
●厚い布を入れるとき（押え上げの使い方） 17
●押え圧ダイヤルの使い方 17
●ドロップつまみの使い方 17
●厚手の布端の縫いはじめ 18
●押えの取りかえ方 18
●押えホルダーのはずし方、つけ方 18
●針の取りかえ方 19
●布に適した糸や針を選ぶ目安 19
●ジグザグ縫い 20
　★縫い目の巾・あらさを変えるとき 20
●裁ち目かがり 21
　★ジグザグ縫い裁ち目かがり 21
　★トリコット縫い裁ち目かがり 21
　★かがり縫い 21
●オートボタンホール ..... 22～26
　★ボタンホールの種類 22
　★ボタンホール（BH1）の縫い ..... 23～25
　★縫い目あらさを変えるとき 25
　★ボタンホール(BH2,BH3)の縫い 26
●芯入りオートボタンホール 27
●かんぬき止め縫い 28
●ボタンつけ 29
●ファスナーつけ ..... 30～32
●くけ縫い（まつり縫い） 33
●三つ巻き縫い 34
●アップリケ 35
●パッチワーク 35
●スカラップ 36
●キルティング 36
●スーパー模様の形の整え方 37
●プログラム縫い
　（模様の組み合わせ「記憶」縫い） 38
　★連続模様縫いの例 （模様＃27・＃28） 38
　★止め縫い「模様＃30」を使った
　　模様縫いの例（模様＃27・＃28） 38
　★反転キーを使った連続模様縫いの例
　　（模様＃19） 39
　★連続模様縫いを途中でやめ
　　先頭頭出しするとき 39
●ミシンの手入れ 40
　★かまの分解 40
　★かまと送り歯の掃除 40
　★かまの組立て 40
●ランプのとりかえ方 41
●ミシンの調子が悪いときの直し方 42

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

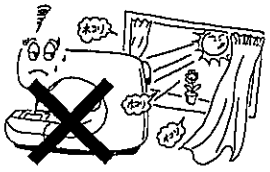


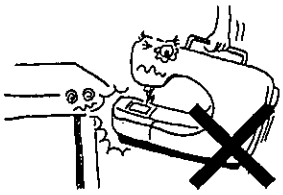
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

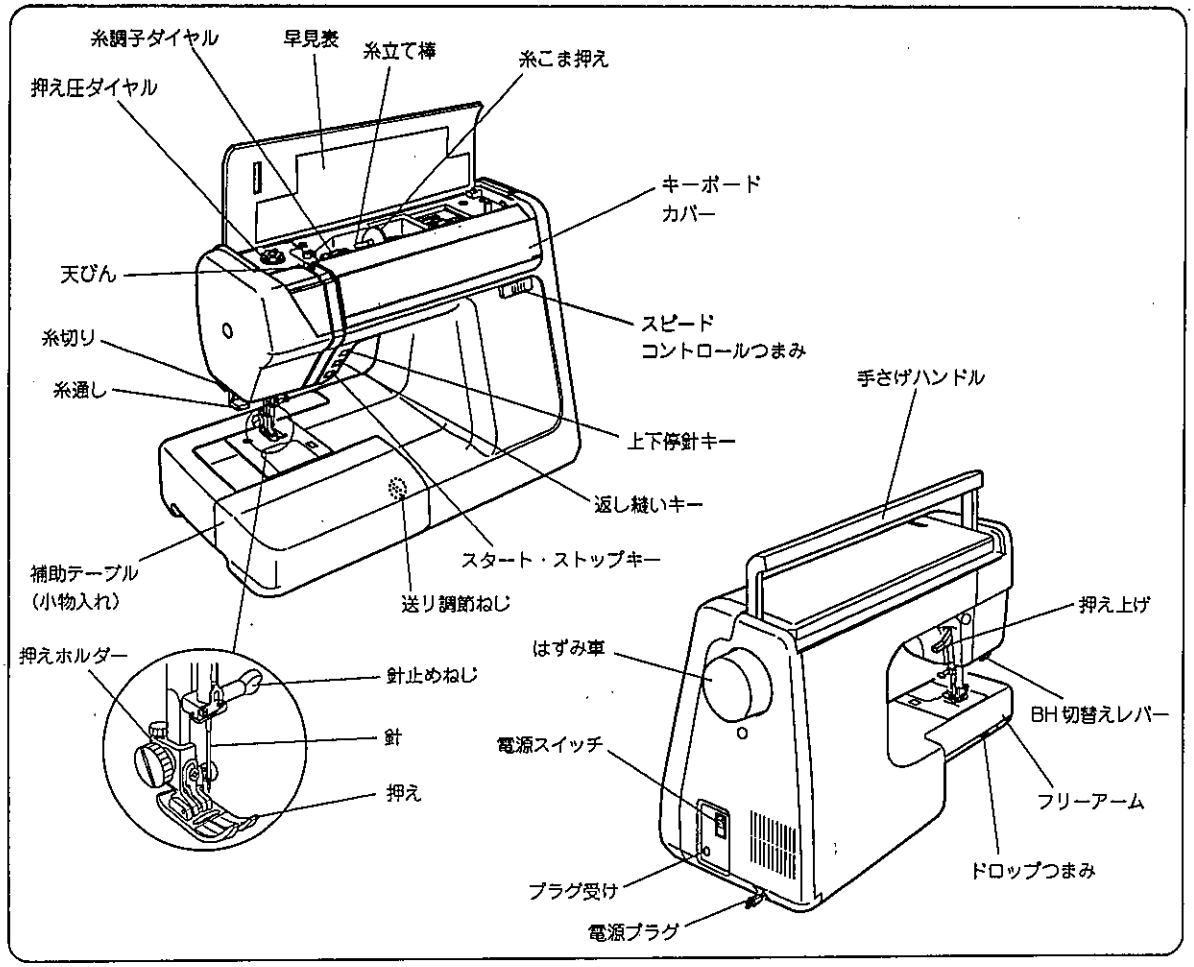




◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(42ページ)により点検・調整を行ってください。

●各部のなまえ

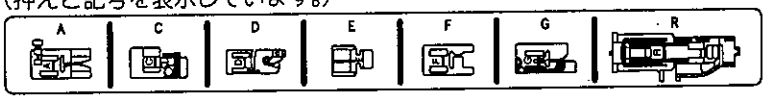


★早見表

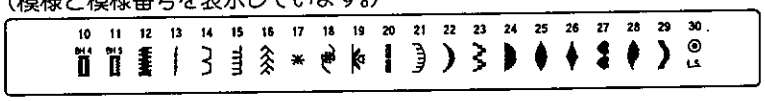
(ぬいの種類とそれに合った上糸調子の目安・押えの記号を表示しています。)

ぬいの種類	1	1	1	4	5	6	7	8 9 0 10 11	13	14	22 - 29
上糸調子の目安	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート
押え	A	D	E	A	A C	A	A C	R	A	G	F

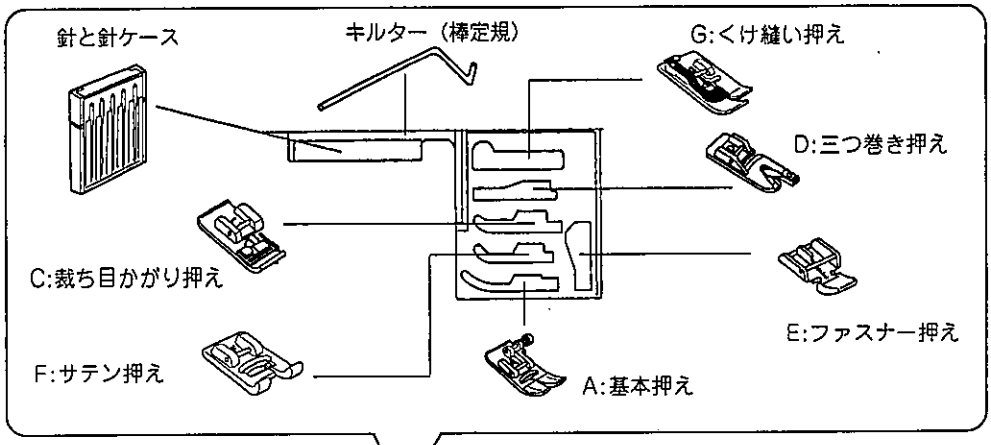
(押えと記号を表示しています。)

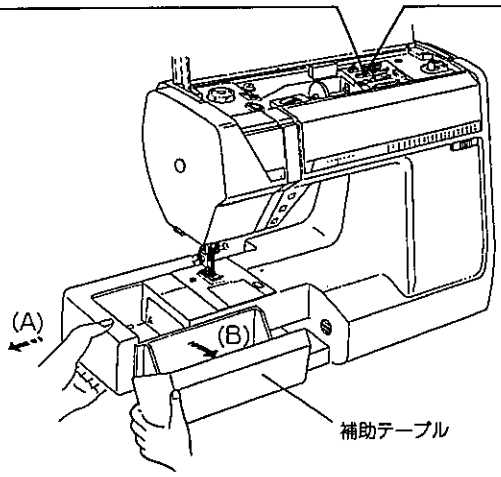


(模様と模様番号を表示しています。)

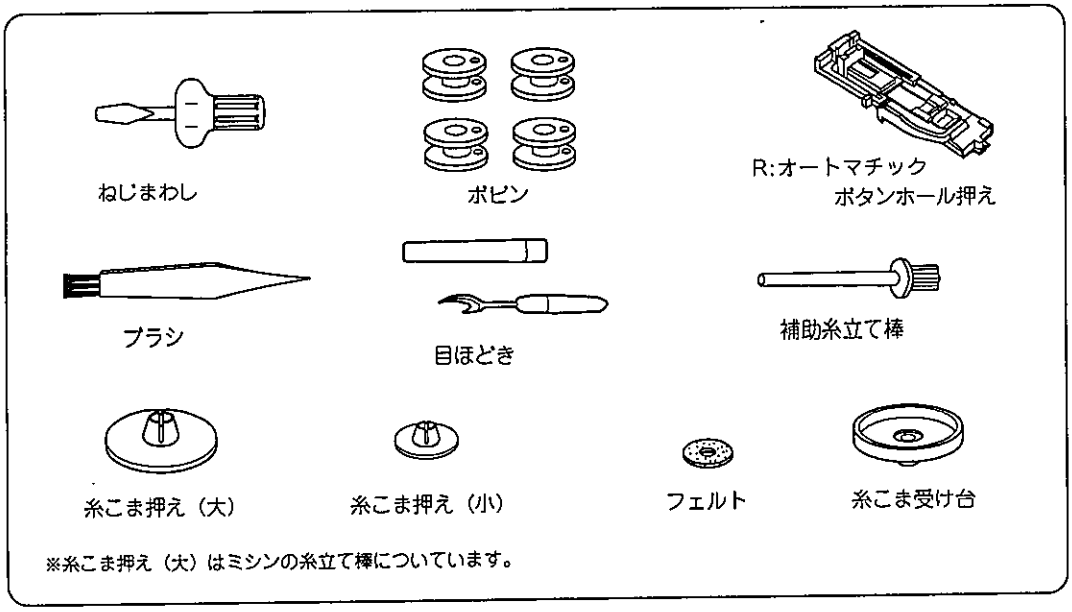


●補助テーブルと標準付属品





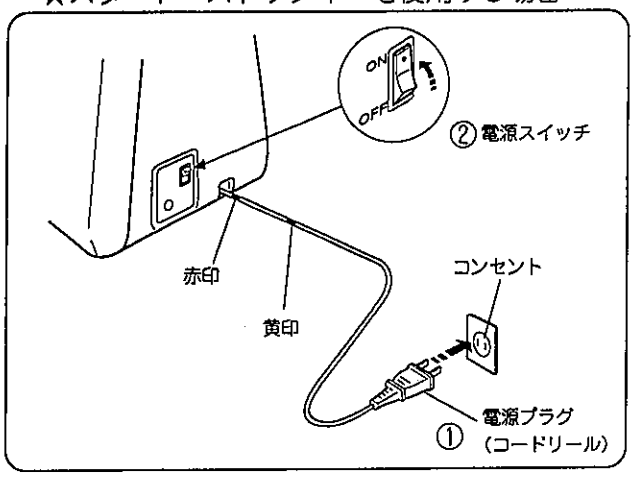
（補助テーブルを外すとき）
① 矢印方向（A)に引いて外します。
② 手前(B)にひらいて、付属品を収納してください。



※糸こま押え（大）はミシンの糸立て棒についています。

●電源のつなぎ方

★スタート･･ストップキーを使用する場合

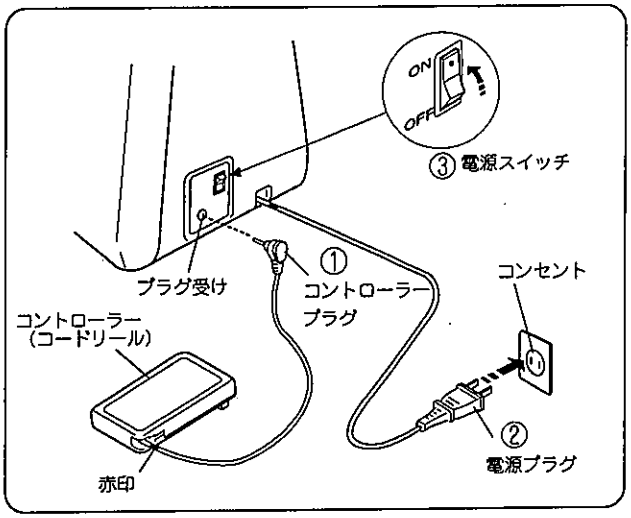


①電源スイッチを OFF(切) にして、電源プラグをコンセントに差し込みます。

②電源スイッチを ON(入) にします。

※コードを引き出したときに、黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。
※電源は一般家庭用（100V 50/60Hz）です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

★コントローラー（別売品）を使用する場合



①電源スイッチを OFF(切) にして、コントローラープラグをプラグ受けにさしこみます。

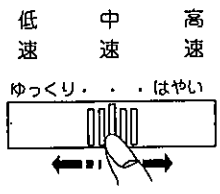
②電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

③電源スイッチを ON(入) にします。

※コードは赤印以上は引き出さないでください。

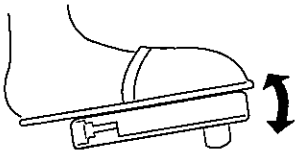
●速さの調節のし方（ミシンのスピードは、コントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。）

★スタート・ストップキーを使用する場合



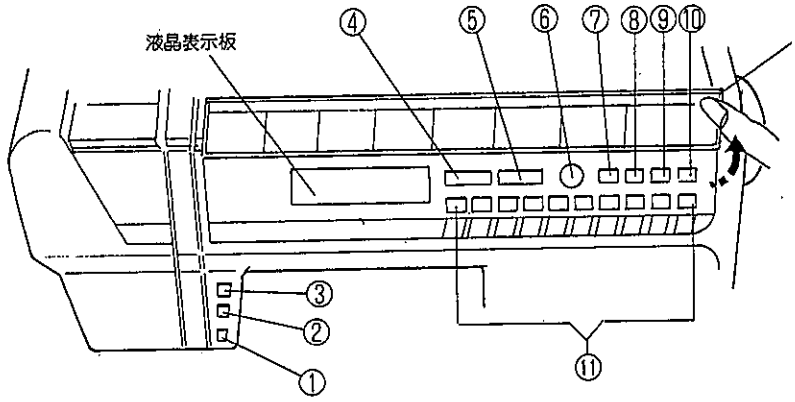
縫う速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

★コントローラー（別売品）を使用する場合



コントローラを踏むと、ミシンがスタートし、速度も調節できます。
足を離すと、ミシンは止まります。
※スピードコントロールつまみは、「はやい」にセットしてください。

●キーの主なはたらき



①スタート・ストップキー

動/止

キーを押すと、ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

②返し縫いキー

模様＃１（直線）は、キーを押している間は返し縫いをします。
その他の模様のときには、止め縫いをして自動的に止まります。

③上下停針キー

ミシンが止まっているとき、キーを押すと針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置にきりかわります。

④ぬい目の巾キー

縫い目の巾を変えるときに「◀」キーまたは「▶」キーを押します。
※画面表示は巾（W）及びあらさ（L）が表示されます。

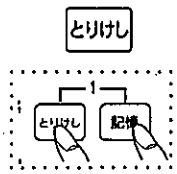
⑤ぬい目のあらさキー

縫い目のあらさを変えるときに「◀」キーまたは「▶」キーを押します。
※画面表示は巾（W）及びあらさ（L）が表示されます。

⑥液晶表示板調節つまみ

つまみをまわすと液晶表示板のあかるさがかわります。

⑦とりけしキー



模様を記憶させているときに、間違えて選んだ模様を記憶させた場合、取消キーを押すとその模様だけが取り消されます。
記憶させたすべての模様を取り消すときは、とりけしキーと記憶キーを同時に押します。

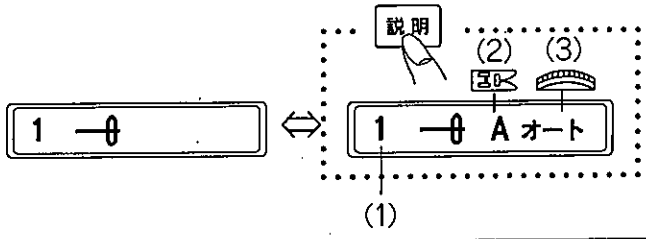
⑧記憶キー

模様を選んでから記憶キーを押すと、キーを押した数だけその模様を記憶します。
さらに、他の模様を選んでから記憶キーを押すと、前の模様に続けて、次に選んだ模様を記憶します。(模様は、終わりの止め縫いを含めて５０個まで記憶します。)
※記憶できない模様は、＃２、＃３、BH1～5、＃12、＃14です。

⑨反転キー

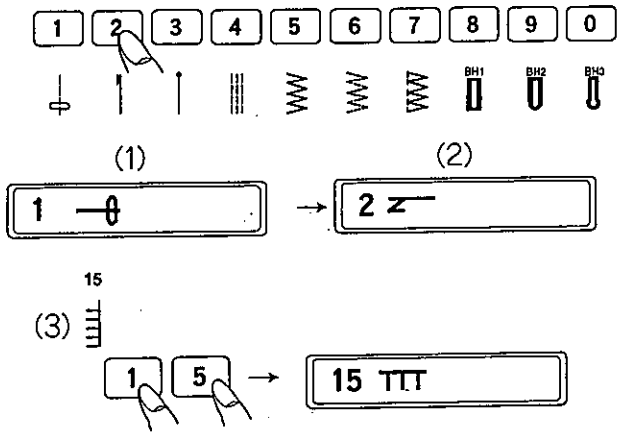
模様を選んでから反転キーを押すと、選んだ模様を左右反対にします。

⑩説明キー



キーを押している間は、
(1) 模様番号と模様、
(2) 模様に合った押え、
(3) 模様に合った糸調子
を表示します。

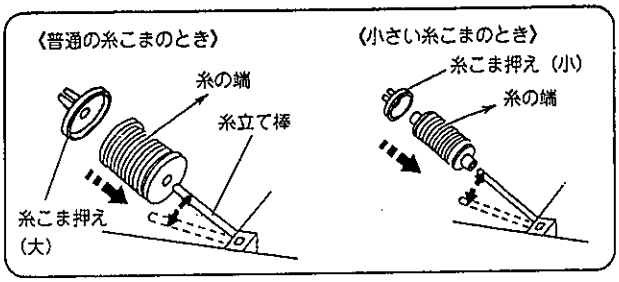
⑪模様選択キー（テンキー）



(1) 電源投入時、及び模様＃１を選んだときの表示
(2) No.2のキーを押すと、その下の模様が選べます。
※模様＃２（No.2キー）から＃４（No.4キー）の模様を選ぶと、＃24の模様が選ばれます。＃４の模様を選ぶときには、もう一度＃４（No.4キー）を選び直すか、取消キーを一度押して選んでください。
(3) その他の模様を選んだときの例（模様＃15）

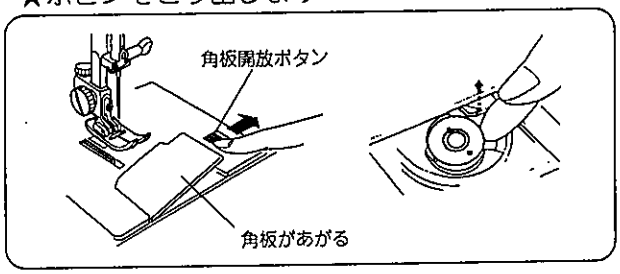
●下糸の準備をしましょう

★糸こまをセットします



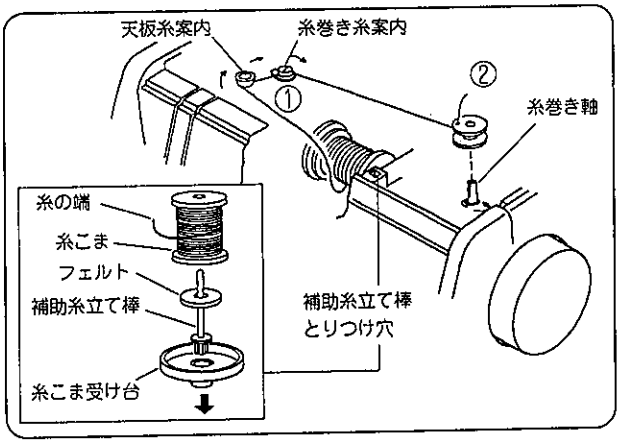
糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。

★ボビンをとり出します

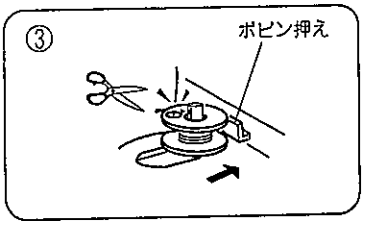


角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

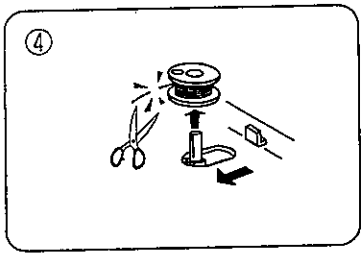
★ボビンに糸を巻きます



※補助糸立て棒の利用もできます。
※補助糸立て棒は、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で取付け穴にセットします。
※糸の端は、左図の如く右回りに出るようにします。又、補助糸立て棒を利用のときは、手前側から出るようにします。
※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「中速～高速」の間でご使用ください。

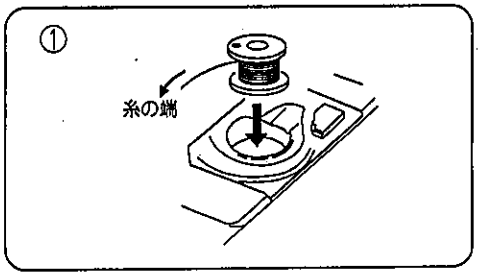


①糸こまから引き出した糸を、天板糸案内と糸巻き糸案内に掛けます。
②ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。
③ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ、糸の端をつまんだまま、ミシンを動かしてボビンに糸を巻きはじめます。三重ぐらい巻きついたら、いったんミシンを止めて糸を切ります。

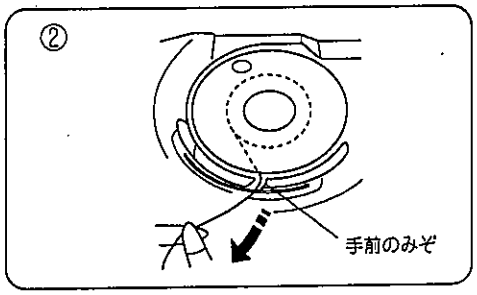


④ふたたびミシンを動かして、糸を巻きおわったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。
※糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

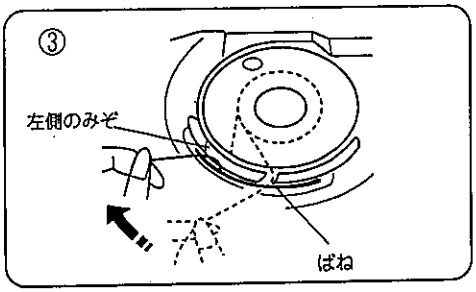
★ボビンをかまにセットします



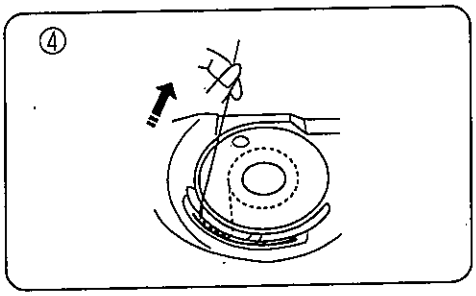
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。



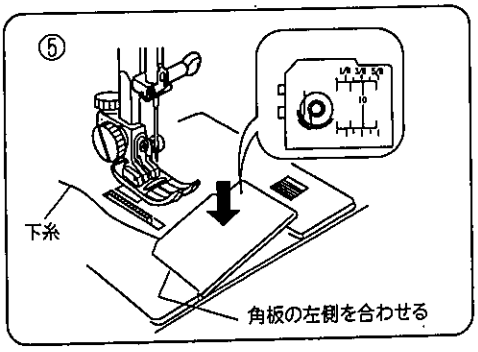
②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。



③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞのところに出します。



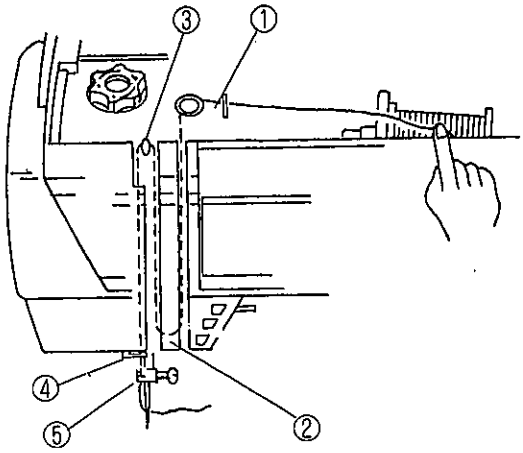
④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

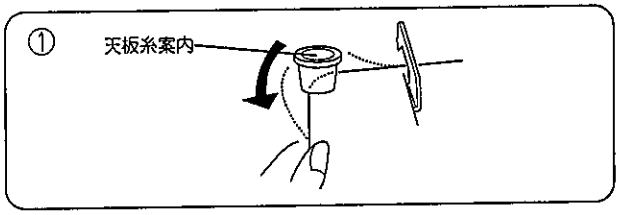


⑤下糸は１０cmくらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

●上糸の準備をしましょう

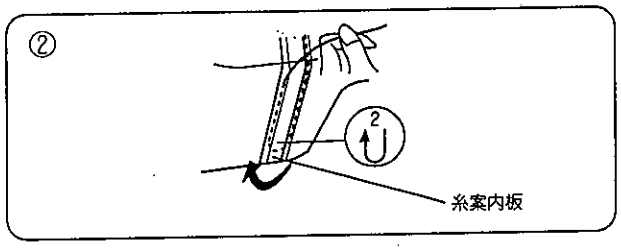
★上糸を掛けます



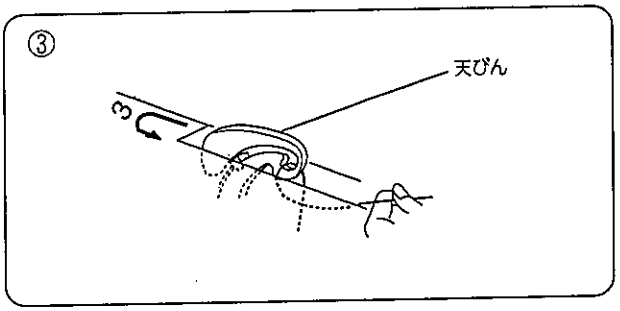


①押え上げをあげ、糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら天板糸案内の下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板に沿っておろします。

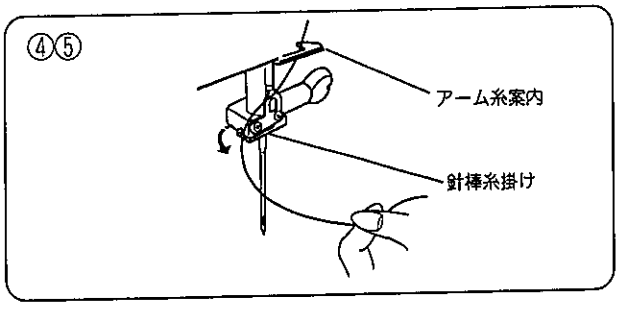
（糸こまの切欠きは左側にセット、糸の端は右回りに出るようセット）



②糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。



③天びんに、右から後ろへまわして左手前に出し、まっすぐ下におろします。



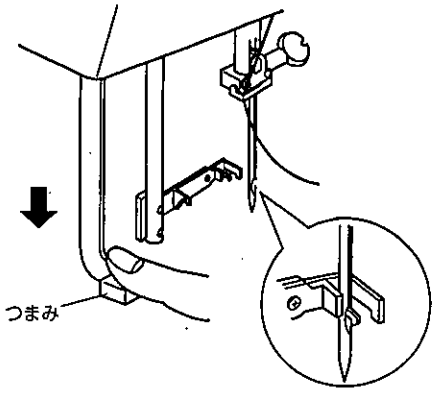
④アーム糸案内に右から掛けます。

⑤針棒糸掛けに左から掛けます。

※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、11ページをごらんください。

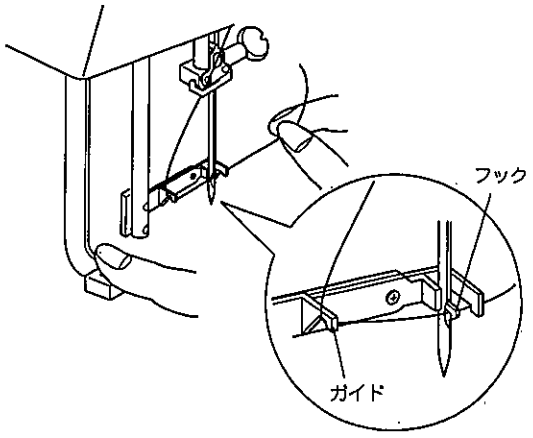
★糸通しの使いかた

①



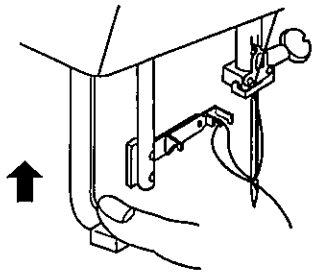
①針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。
フックが針穴に入ります。

②



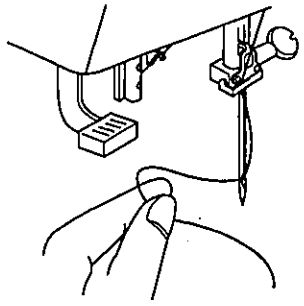
②糸をガイドとフックに掛けます。

③



③糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにはなすと、糸の輪が引きあげられます。

④

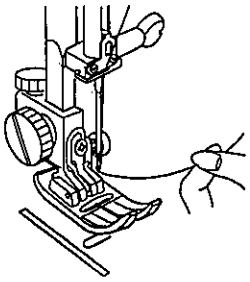


④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

※針は、１１番～１６番、ジャノメブルー針、
糸は、５０番～１００番が使えます。
針、糸の太さによっては、使えない場合があります。

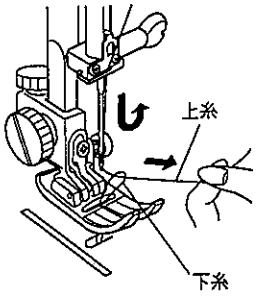
★下糸を引きあげます

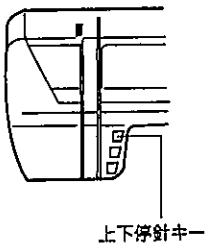
①



①押え上げをあげ、上糸を持ちます。

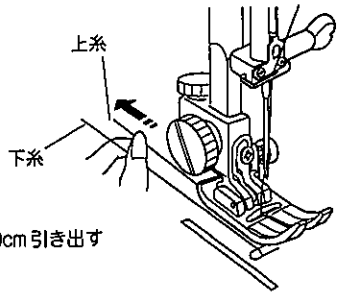
②





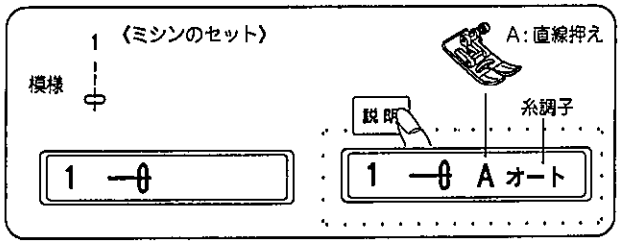
②上下停針キーを２度押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③

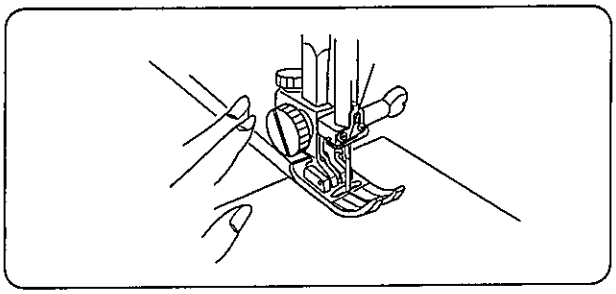


③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●直線縫い



★縫いはじめ

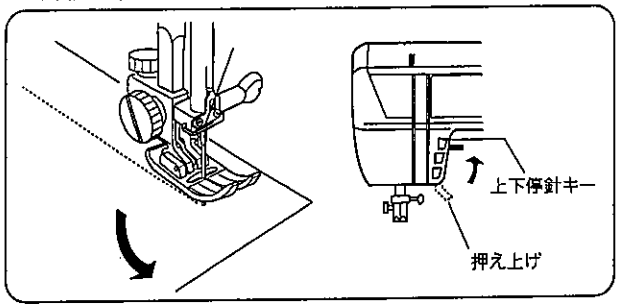


糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。

押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

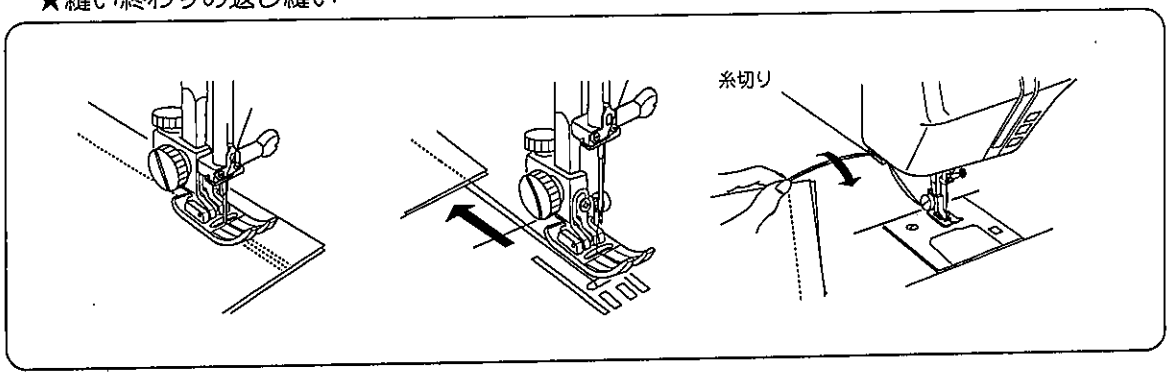
＊縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いキーを押しながら返し縫いをする方法と、自動返し縫いのついた模様＃2を使う方法とがあります。

★縫い方向をかえるには



ミシンを止め、上下停針キーを押して針を布に刺し、押え上げをあげます。
針を布に刺したまま、縫い方向を変えます。

★縫い終わりの返し縫い



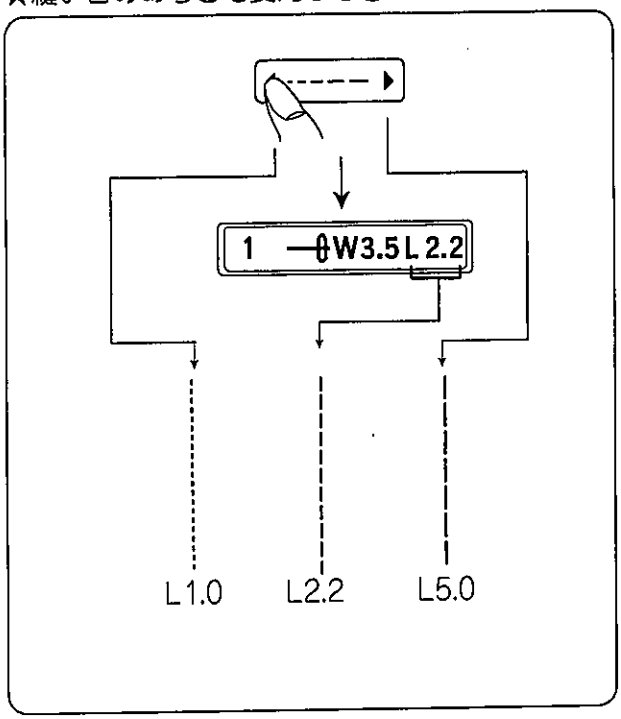
①返し縫いキーを押しながら数針返し縫いをします。

※模様＃2のときには、返し縫いキーを1度押すだけで、自動的に返し縫いをします。

②押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

★縫い目のあらさを変えるとき



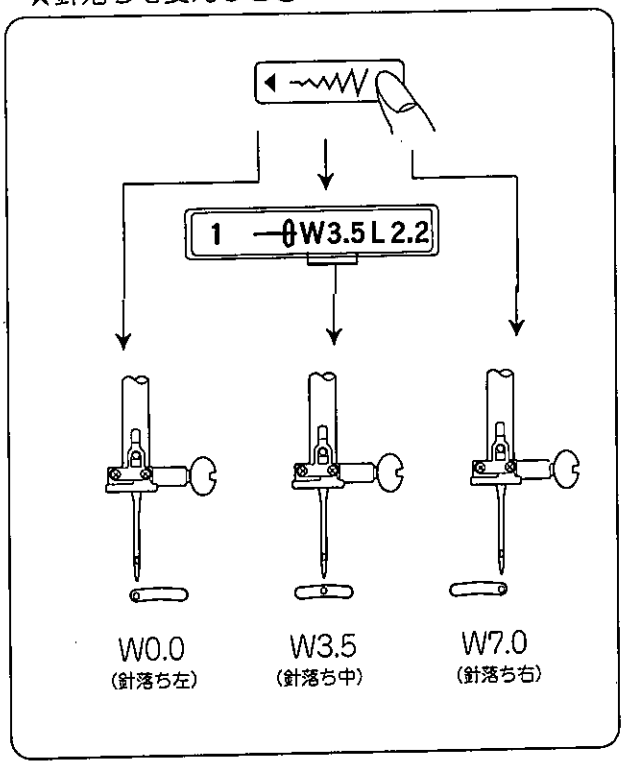
○ [◀------▶] キーを押すと、最初は自動セットの数値2．2が表示されます。
※0～5.0の範囲で変えることができます。

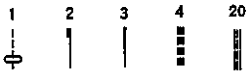
「◀」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、縫い目が細かくなります。

「▶」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目があらくなります。

※返し縫いの縫い目のあらさは、0.25cm以上にはなりません。

★針落ちを変えるとき



○直線状の縫い目、模様 

は、針落ち位置を変えることができます。

○ [◀～W▶] キーを押して、針落ち位置を変えます。

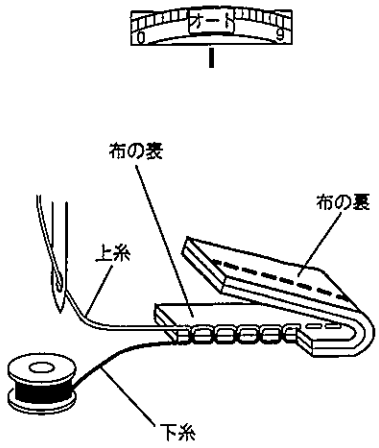
●直線状の縫い目いろいろ

模 様	押 え	使 い 方
1	A:基本押え	地縫いや、ファスナーつけなどに使います。
2	A:基本押え	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 (縫いおわりにきたら、返し縫いキーを1度押します。 数針返し縫いをしてから自動的に止まります。)
3	A:基本押え	目立たない止め縫いを自動的に行うときに使います。 (縫いおわりにきたら、返し縫いキーを1度押します。 数針止め縫いをして自動的に止まります。)
4	A:基本押え	伸縮性のある強い縫い目なので、補強縫いに便利です。
13	A:基本押え	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。 また、直線状なので縫いしろを割ることができ、ニット、トリコットなどの縫い合わせに便利です。
20	A:基本押え	縫い目のあらい三重縫いです。飾りミシンや刺子(さしこ)風(ふう)にも使えます。

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通の縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。



〈バランスのとれた糸調子〉

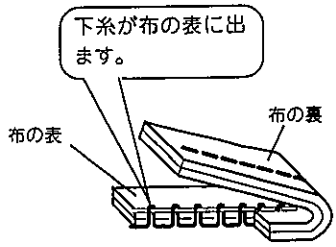
□直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

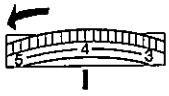
□ジグザグ縫いのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

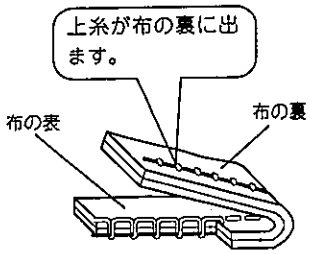
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸の交わる位置を自由に調節できます。

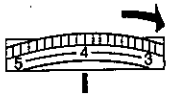
□上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛に合わせます。



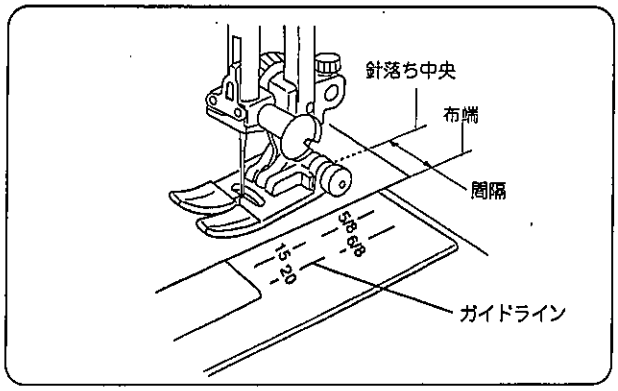


□上糸が弱すぎるとき･･･大きな目盛に合わせます。





●針板ガイドラインの利用

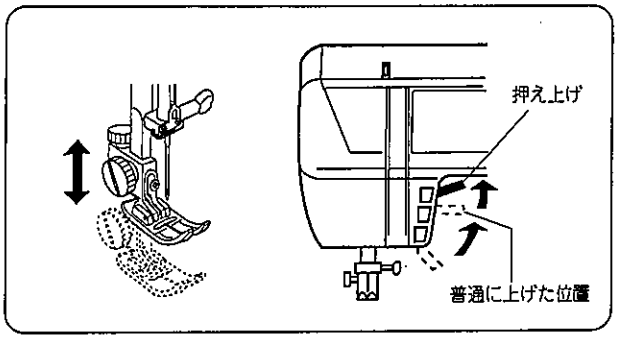


□布端を針板ガイドラインに合わせて縫います。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間隔 (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

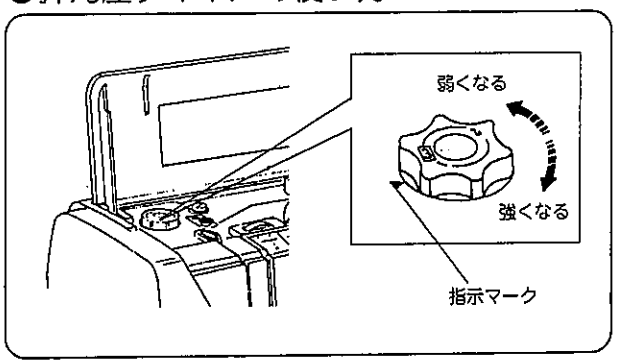
※数字は、針落ち中央から布端までの間隔です。

●厚い布を入れるとき（押え上げの使い方）



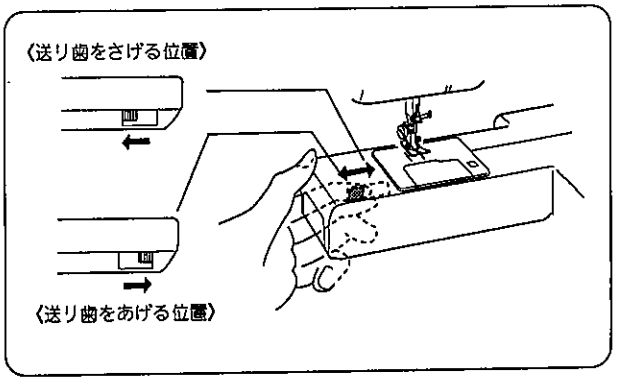
□押え上げを普通にあげた位置よりあげると、押えは更にあがります。

●押え圧ダイヤルの使い方



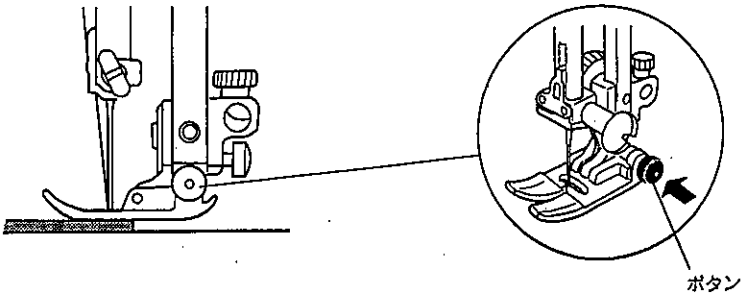
□普通縫いのときは・・・・・・・・・「3」
□薄手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれがするとき、または、縫いしろ部分が重なり合うときは・・・・・・・・・・「2」または「1」

●ドロップつまみの使い方



□ボタン付けなどのときは、送り歯をさげる位置にセットします。
※終わったら、送り歯をあげる位置に戻しておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的に上がります。

●厚手の布端の縫いはじめ



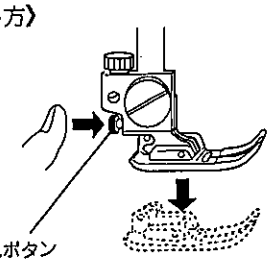
①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押えをさげます。

③ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

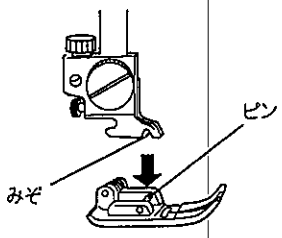
●押えの取りかえ方

《はずし方》



□押え上げをあげて、赤色ボタンを押して、押えをはずします。

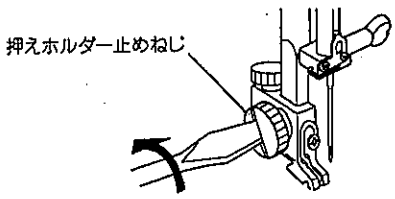
《つけ方》



□押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて、押え上げを静かにおろします。

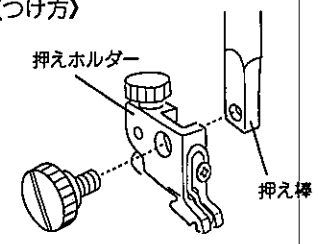
●押えホルダーのはずし方、つけ方

《はずし方》



□押えホルダー止めねじを左に回して、はずします。

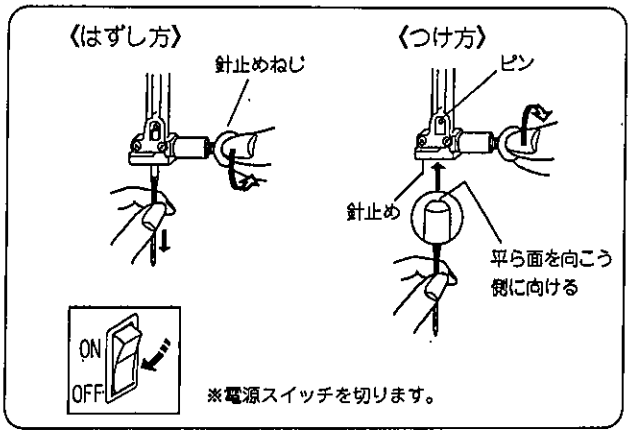
《つけ方》



□押えホルダー止めねじを右にまわして、つけます。

※押えの取りかえ、及び押えホルダーのはずし方、つけ方のときは、必ず電源スイッチを OFF(切) にしてから行ってください。

●針の取りかえ方



※針をあげ、押え上げをさげます。

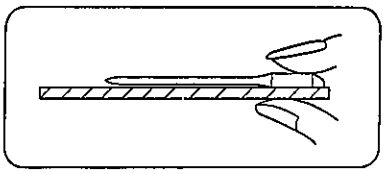
【はずし方】

①針止めねじを手前に1~2回まわしてゆるめ、針をはずします。

【つけ方】

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまでさしこみ針止めねじをかたくしめます。

「針の調べ方」



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット デシン	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

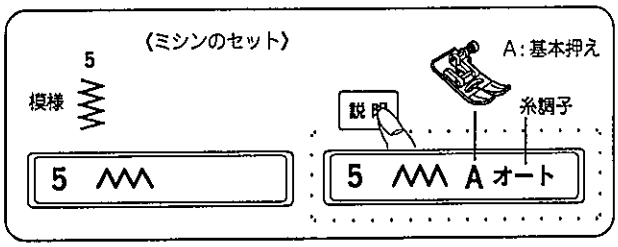
＊一般に、うすい布には細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試し縫をして確かめてください。

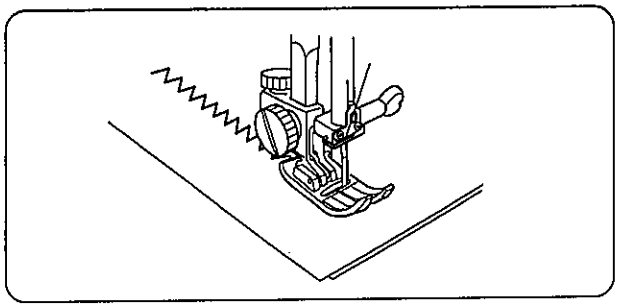
＊原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

＊伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。

（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

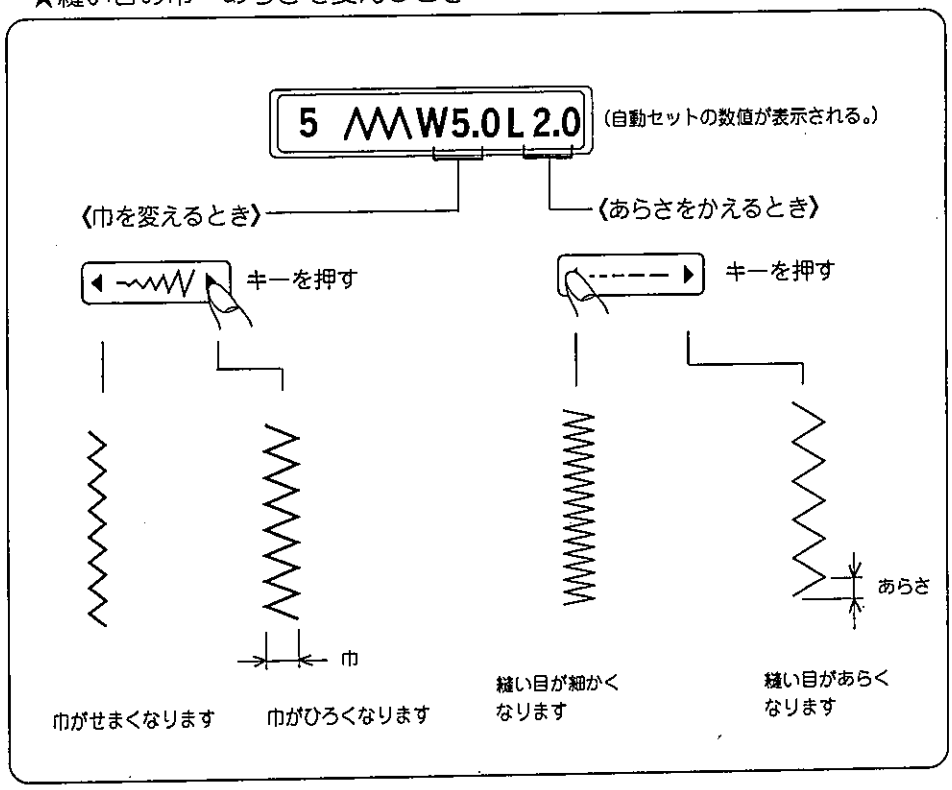
●ジグザグ縫い





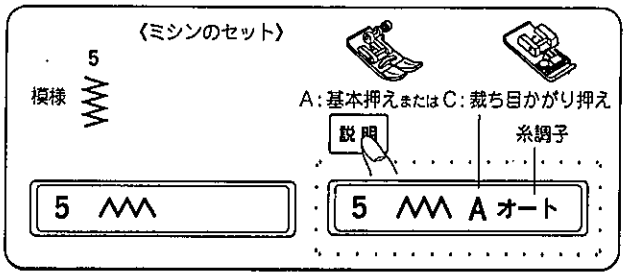
□伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいに縫えます。

★縫い目の巾・あらさを変えるとき

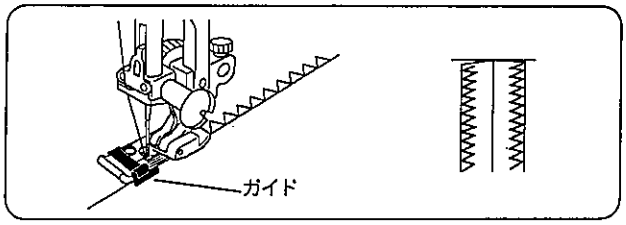


●裁ち目かがり

★ジグザグ縫い裁ち目かがり



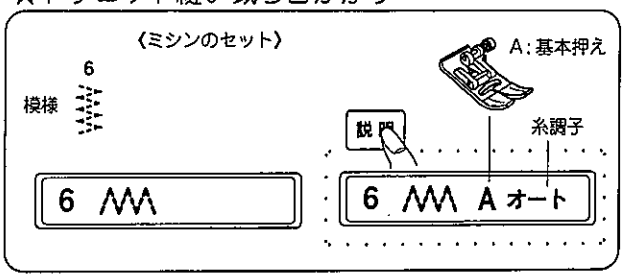
※C:裁ち目かがり押えを使用するときは、縫い目の巾は、5.0~7.0で縫います。

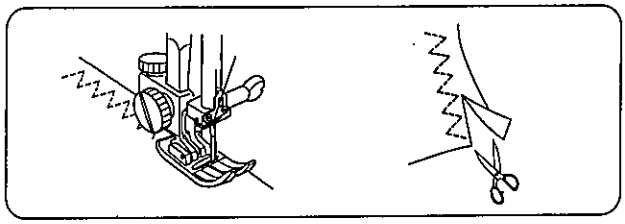


□布端を裁ち目かがり押えのガイドに当てて縫います。

□布端のほつれ止めとして広く利用します。

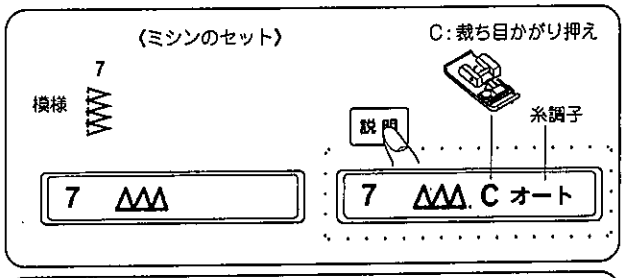
★トリコット縫い裁ち目かがり

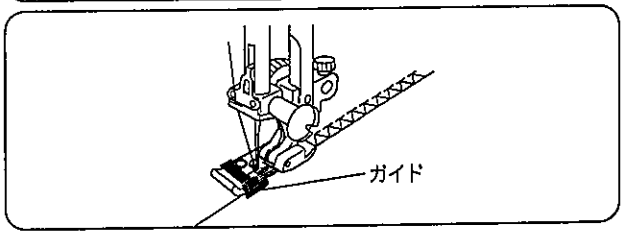




ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを縫い目の近くで切り落とします。

★かがり縫い



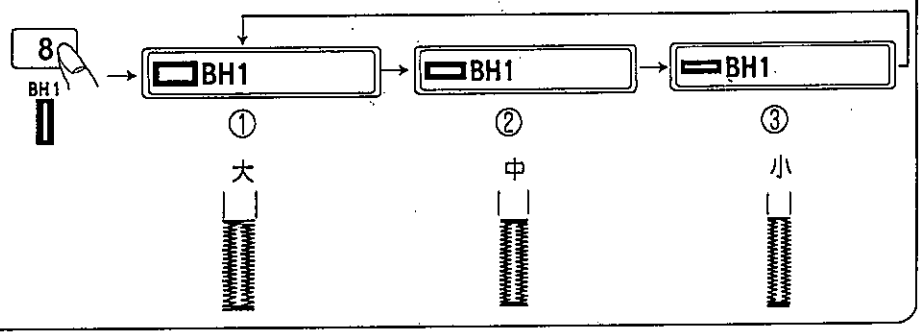


地縫いをかねたかがり縫いで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
布端をガイドにあてて縫います。
※縫い目の巾は、5.0~7.0で縫います。

●オートボタンホール

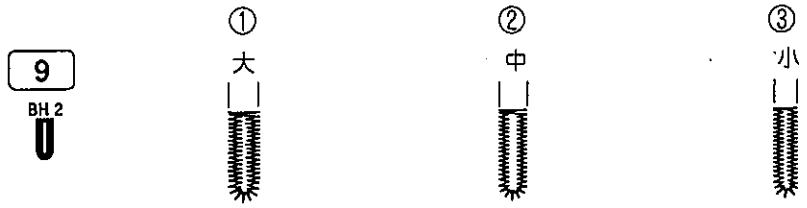
★ボタンホールの種類

◎スクエア（両止め）・・・シャツ・ブラウスなどのボタンホールに使います。

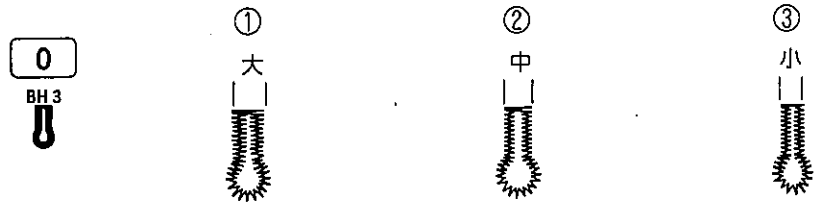


□模様選択キーを押すと①、②、③の順番に巾の異なった３種類のボタンホールが選べます。

◎ラウンド（片止め）・・・シャツ・ブラウスなどの薄い素材のボタンホールに使います。

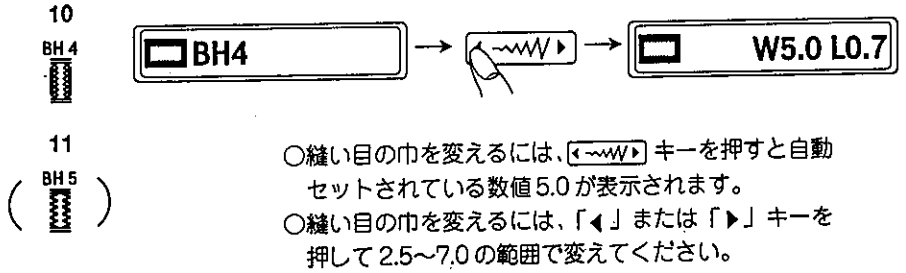


◎キーホール（鳩目穴）・・・シャツ・ジャケットなどの厚い素材のボタンホールに使います。



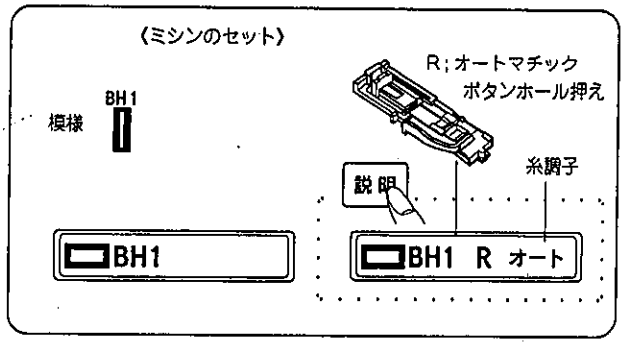
※BH2、BH3の模様の選び方はBH1のときと同じです。

◎ニット（両止め）・・・ストレッチ地（ジャージー、ニット）などの素材のボタンホールに使います。

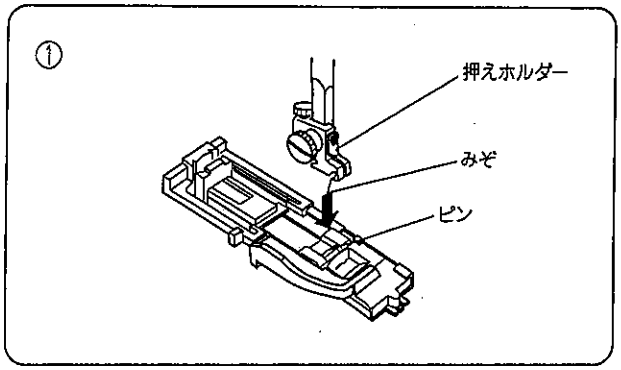


○縫い目の巾を変えるには、キーを押すと自動セットされている数値5.0が表示されます。
○縫い目の巾を変えるには、「◀」または「▶」キーを押して2.5～7.0の範囲で変えてください。

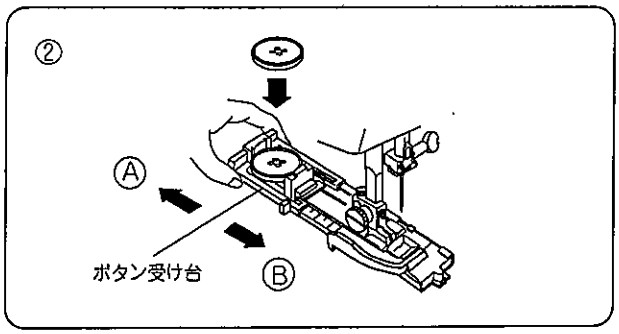
★ボタンホール（BH1）の縫い



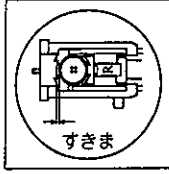
◎ボタンホールの長さは、使用するボタンをRオートマチックボタンホール押えのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
◎ボタンの直径が2.5cmまで、ボタンホールができます。
◎縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。
◎伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。



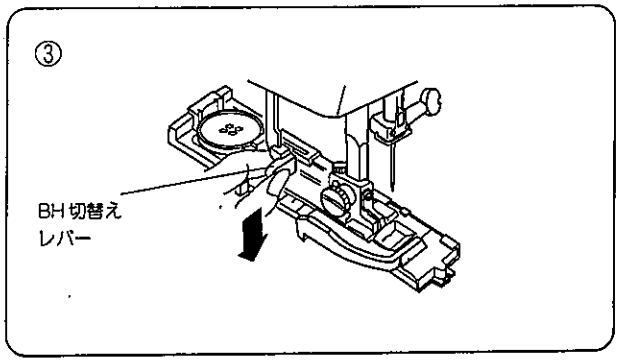
①押えホルダーのみぞと、押えのピンを合わせ押え上げをさげボタンホール押えをセットします。



②ボタン受け台をⒶ方向に引き、ボタンをのせてⒷ方向に戻し、はさみます。

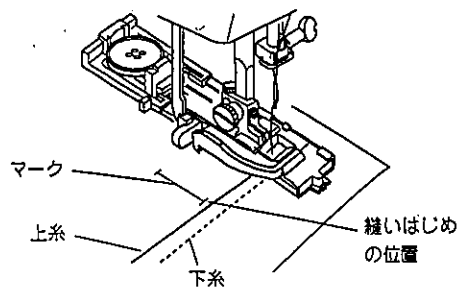


※ボタン受け台のすきまをあけて、位置決めするとその分大きいボタンホールができます。



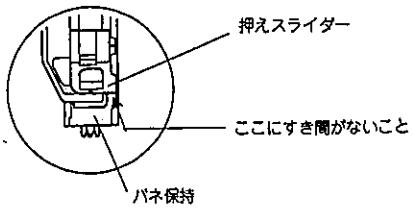
③ＢＨ切替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④



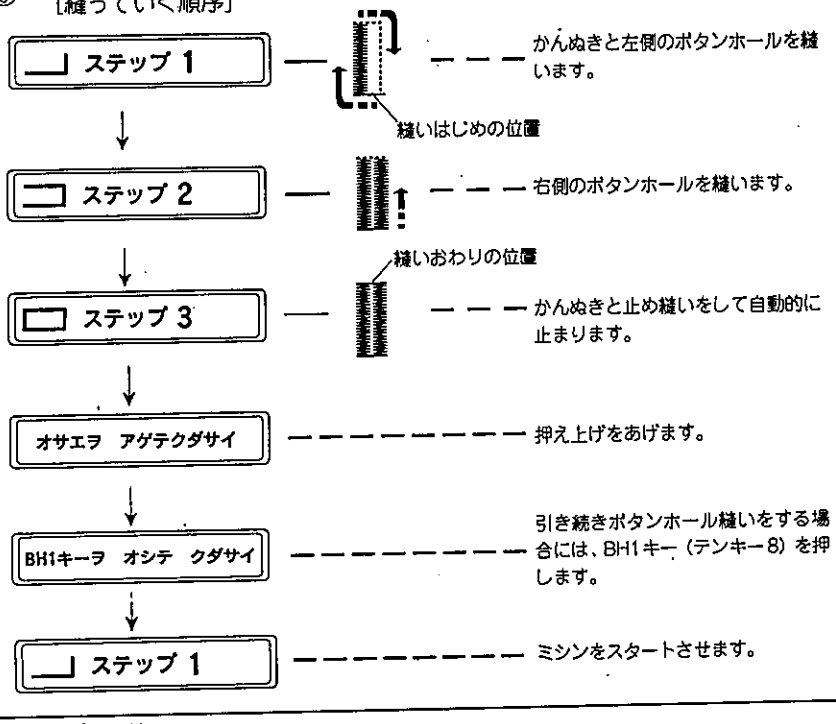
④押えをあげて上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、縫い始めの位置に針をさして、押えをさげます。

【注意】



※縫い始めに、押えスライダーとバネ保持の間にすき間がないことを確認してください。
すき間があると左右の縫い位置が異なります。

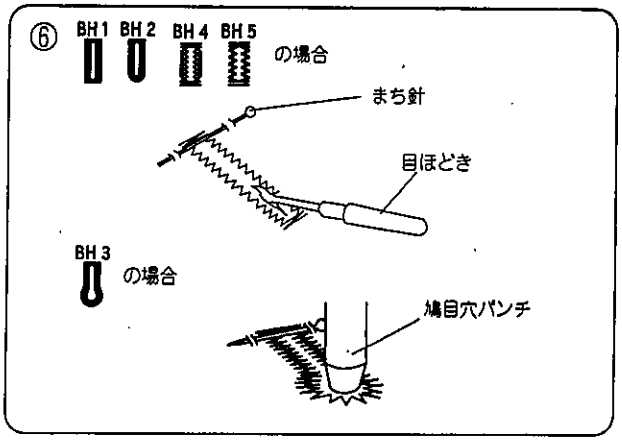
⑤ [縫っていく順序]



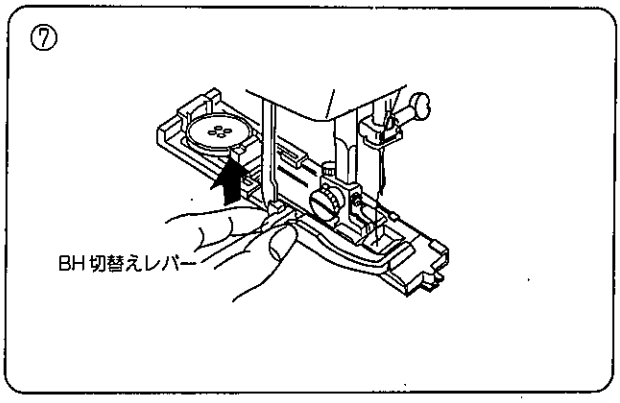
⑤ミシンをスタートして縫います。

10 11

※BH 、 の場合は、押え上げをあげて、もう一度模様を選ばなくても再び縫えます。

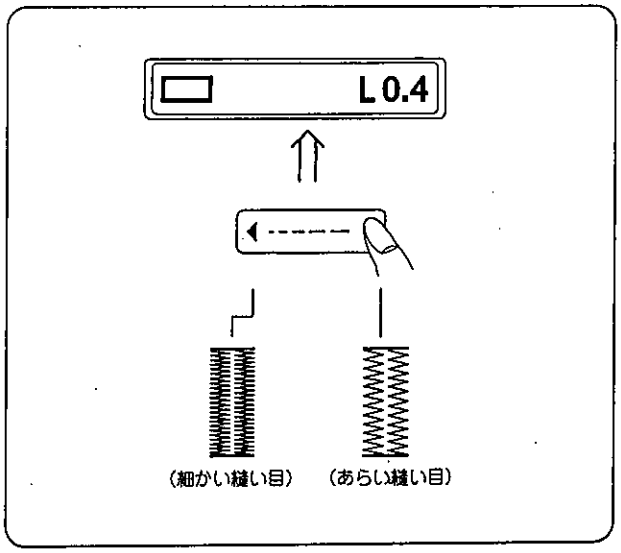


⑥かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。



⑦縫いおわったらBH切替えレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

★縫い目あらさを変えるとき



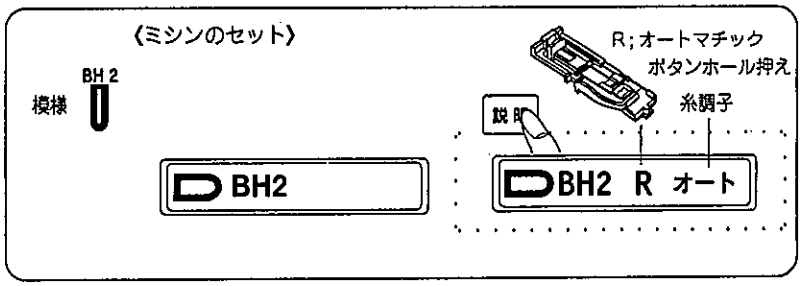
○縫い目あらさキーを押すと自動セットされている数値0.4が表示されます。

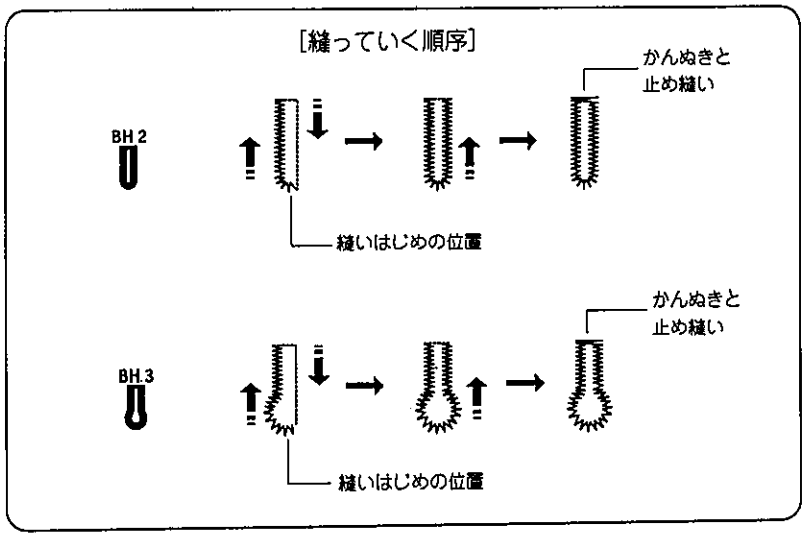
○縫い目のあらさを変えるには、「▶」または、「◀」キーを押して0.2～0.8の範囲で変えてください。

※模様 BH4 BH5 の縫い目のあらさを変えるには0.5～1.0の範囲で変えてください。

※素材や縫い糸に合わせて縫い目のあらさを調節して縫います。

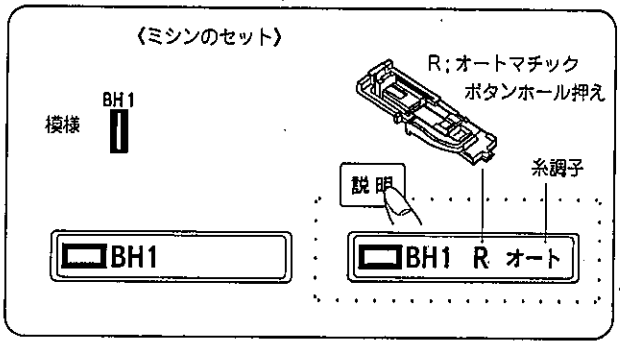
★ボタンホール（BH2,BH3）の縫い



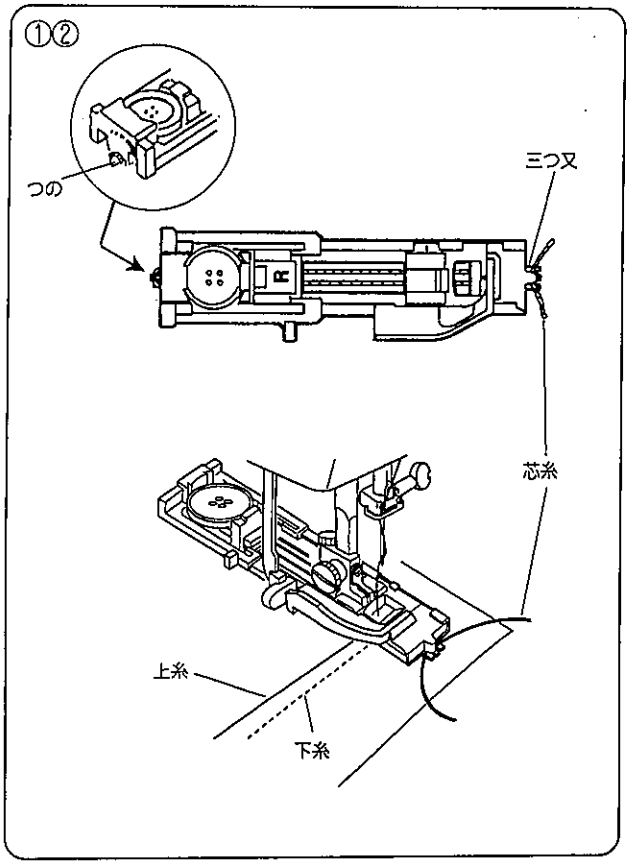


□縫い方はBH1と同じです。(23-25ページをごらんください。)
□縫い目のあらさを変えるときは、25ページをごらんください。

●芯入りオートボタンホール

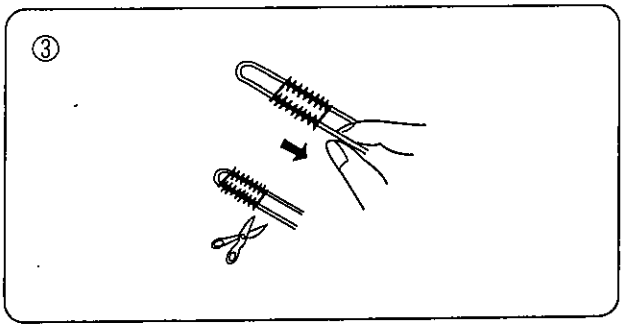


□芯糸に合わせ、3種類の中から巾の合ったものを選んでください。



①芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

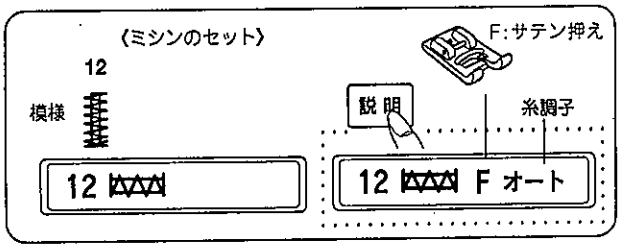
②オートボタンホール手順と同じように縫います。



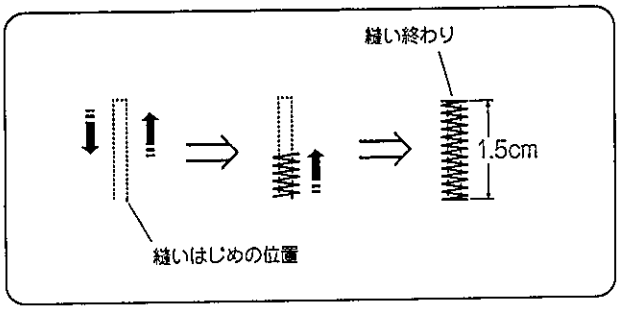
③左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※穴のあけ方は、25ページをごらんください。

●かんぬき止め縫い

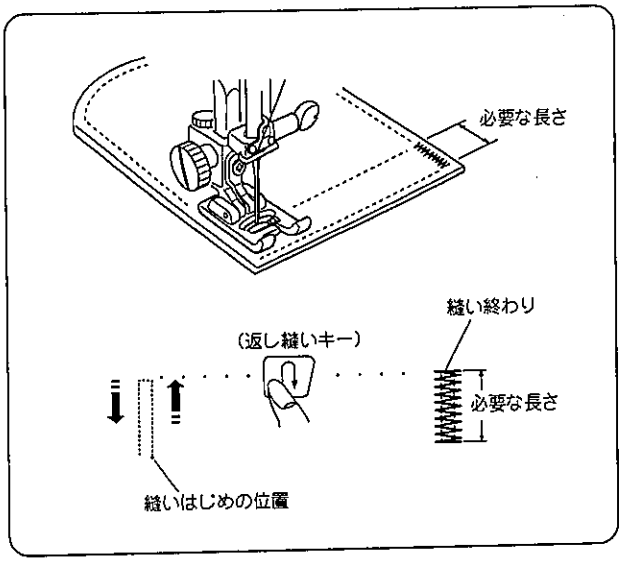


○縫い目に力がかかって、ほつれやすい部分などに使うと、縫い目がしっかりします。



○1回の縫いで、最大1.5cmまで自動的に縫えます。

○縫い目の巾、あらさを変えたいときは、◀～▶ または ◀----▶ キーを押して調節してください。

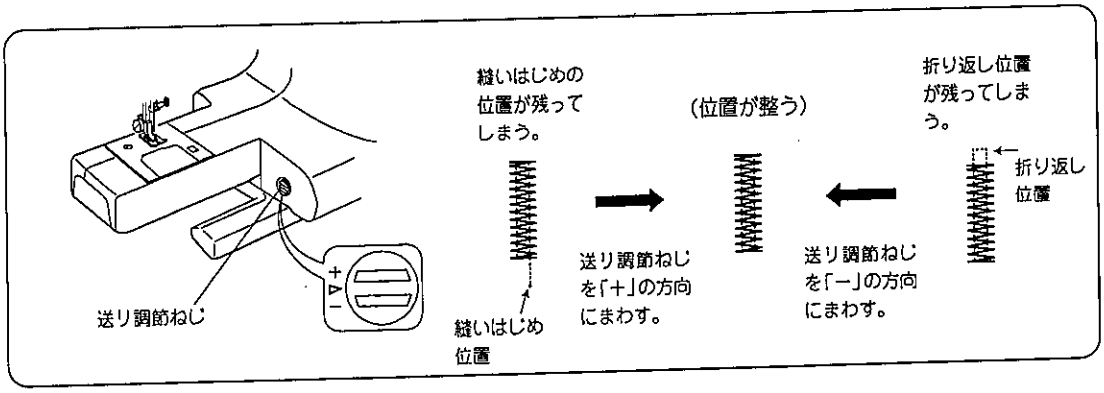


○1.5cmより短い長さで縫うときは、必要な長さまで縫い、返し縫いキーを押すと、押した位置で布が折り返します。

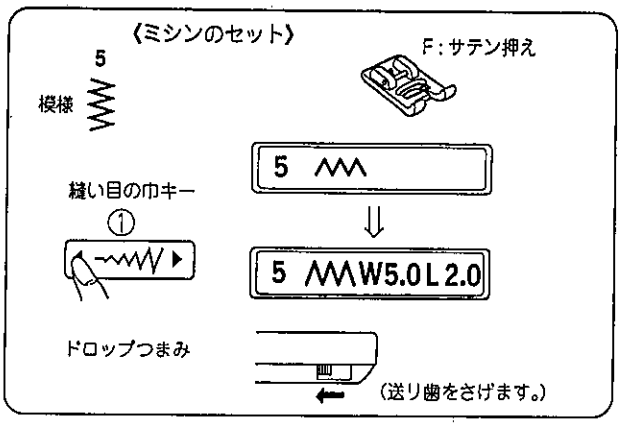
《かんぬき止めの記憶》

○ 記憶 キーを押して、再スタートすると、くり返し同じ長さのかんぬき止めが縫えます。

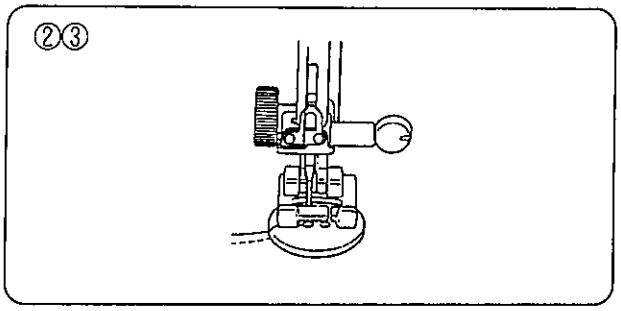
【模様位置ずれの整え方】 模様の位置がずれる場合には、実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじで調節してください。



●ボタンつけ

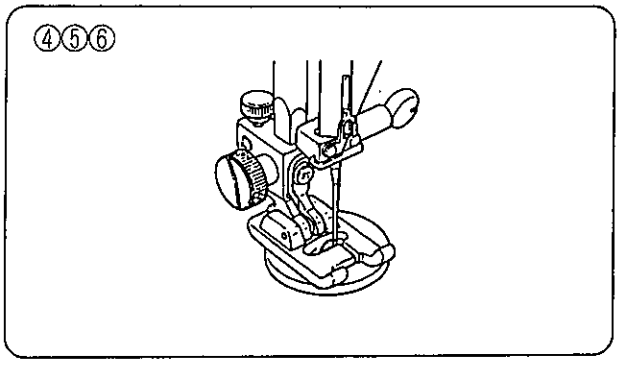


①縫い目の巾キーは、ボタン穴の巾に合わせて調節してください。



②はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

③ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。



④はずみ車をまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

⑤10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

※縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

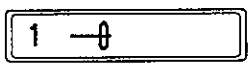
⑥押え上げをあげて布を引き出し、縫いおわりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※縫い終わったら、ドロップつまみを戻して送り歯をあげます。

●ファスナーつけ

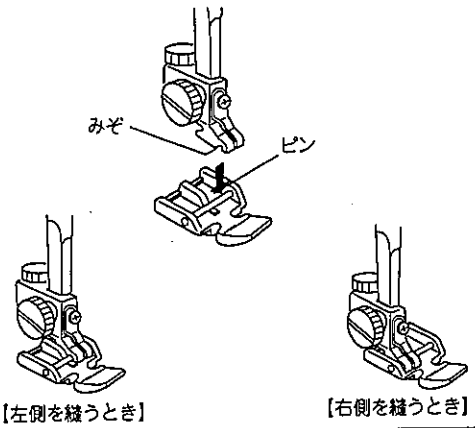
〈ミシンのセット〉

模様 1



押えは、E：ファスナー押えを使用します。

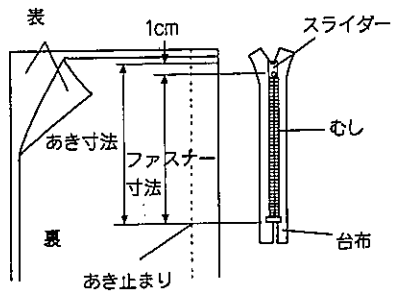
〈ファスナー押えのつけ方〉



◎左側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
◎右側を縫うときは、左側にセットします。

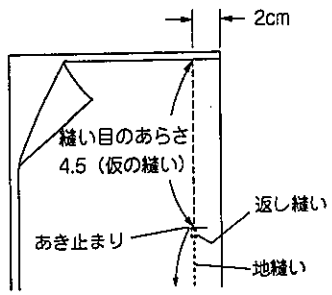
〈準備〉

①



【ファスナーのあき寸法をたしかめます】
①あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

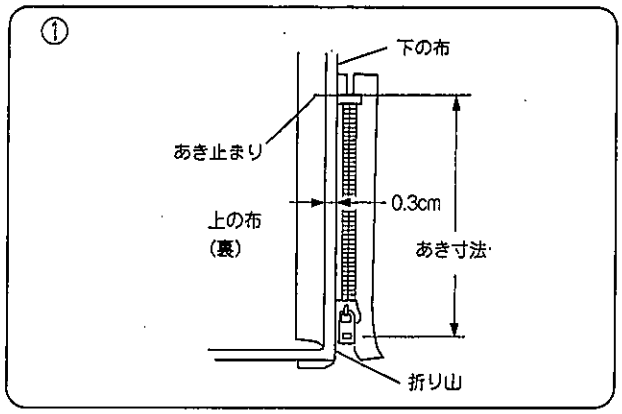
②③



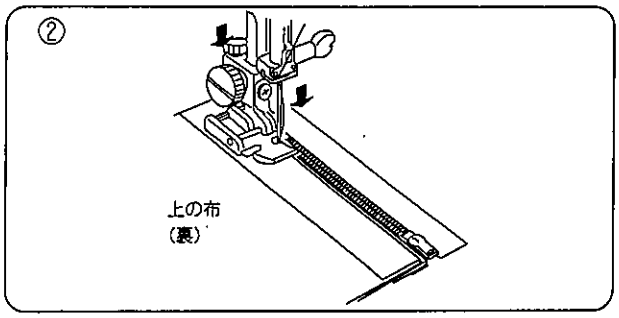
【仮の縫いのしつけと地縫いをします】
②布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。
③あき部分は、縫い目のあらさ4.5で縫います。

※しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにして縫います。

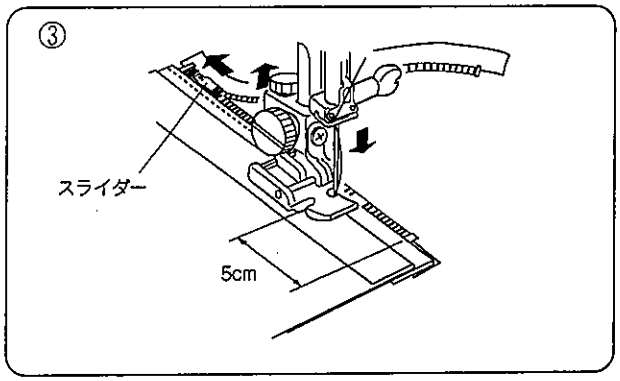
〈縫い〉



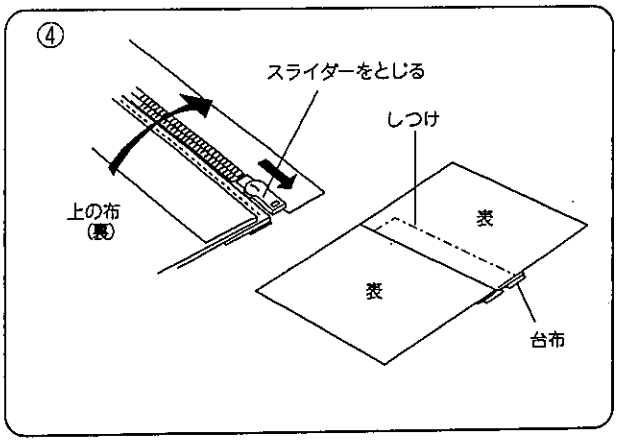
①縫いしろをわり、下の布の縫いしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



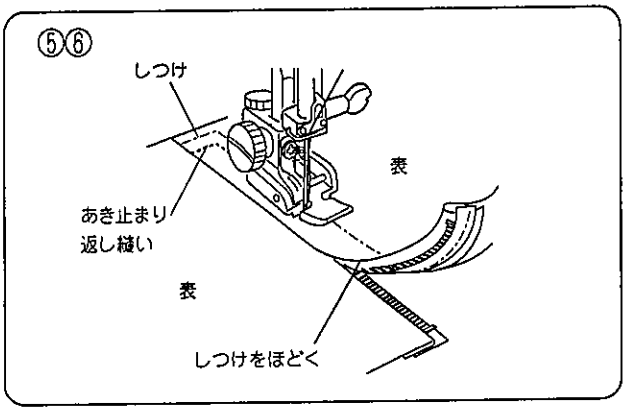
②押えを右側にセットして、むしのきわに押えの端を当てて、あき止まりから縫います。



③ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押えをあげてスライダーを向こう側にずらし、押えをさげて残りの部分を縫います。

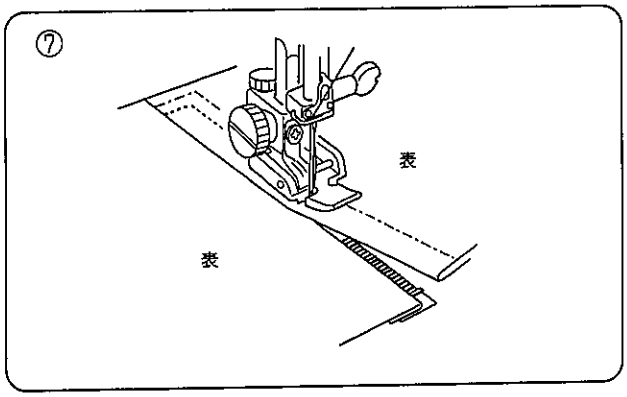


④スライダーをとじ、つまみの金具を上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。



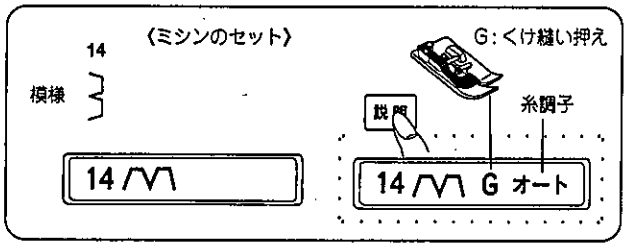
⑤押えホルダーをファスナー押えの左側につけかえ上の布のあき止まりを返し縫いし、むしのきわに押えの端を当てて縫います。

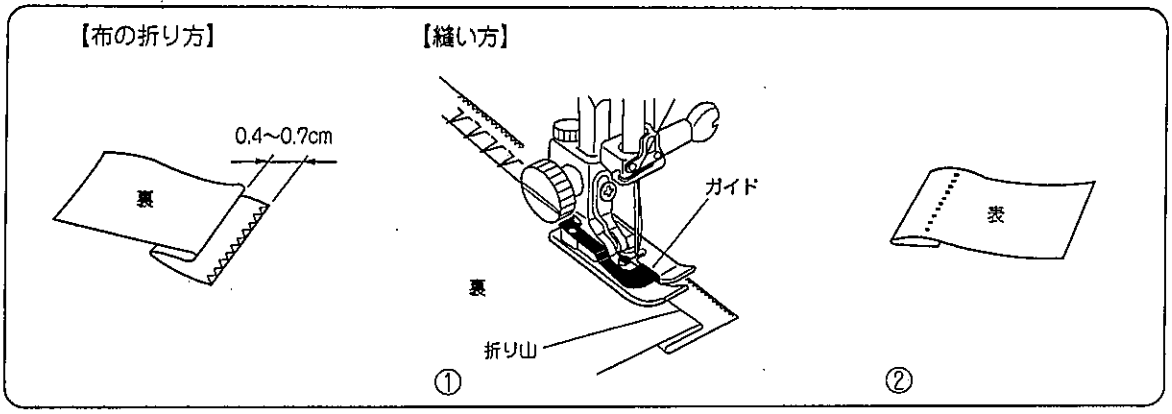
⑥ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめ、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押えをあげて、しつけ糸をほどきます。



⑦スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをさげて残りの部分を縫います。

●くけ縫い（まつり縫い）



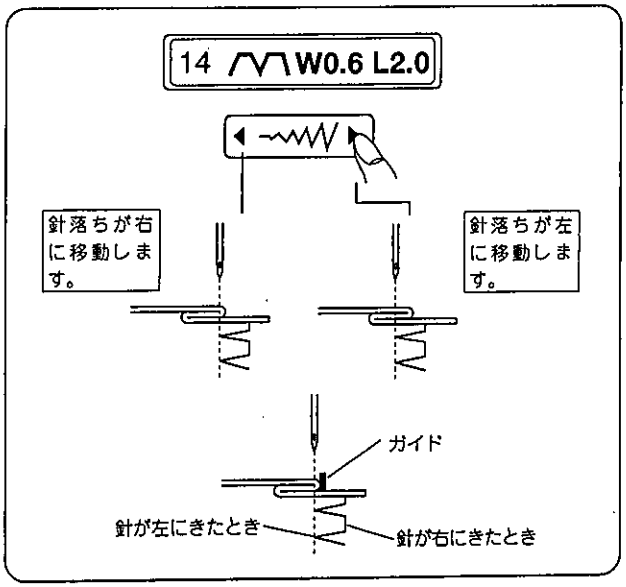


①ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫い目の巾調節キーで針落ち位置を調節して縫います。

②縫い終わったら布をひろげます。

※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでる縫い目が大きくなりきれいに仕上がりませんので注意してください。

【針落ち位置をかえたいとき】



○ キーを押すと、自動セットされている数値0.6が表示されます。

＊表示0.6はガイドから針落ちが左にきたときの巾を示します。

○針が折り山にかからない場合「▶」キーを押して針落ちを左に移動させます。

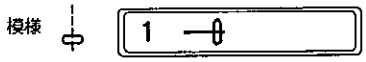
○針が折り山にかかりすぎる場合「◀」キーを押して針落ちを右に移動させます。

●三つ巻き縫い

〈ミシンのセット〉

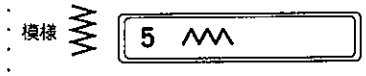
【直線三つ巻き縫い】

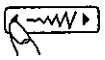
模様 1

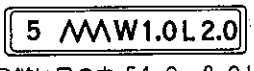


【ジグザグ三つ巻き縫い】

模様 5



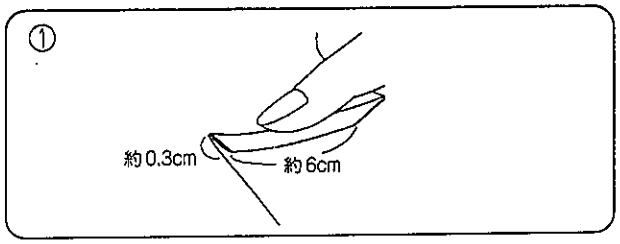




○縫い目の巾「1.0～2.0」

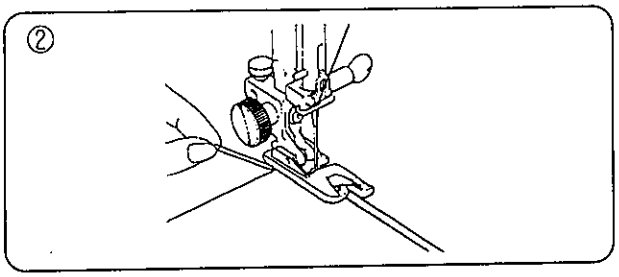
押えは、D:三つ巻き押えを使用します。

※縫い方は、直線三つ巻き縫い、ジグザグ三つ巻き縫いとも同じです。

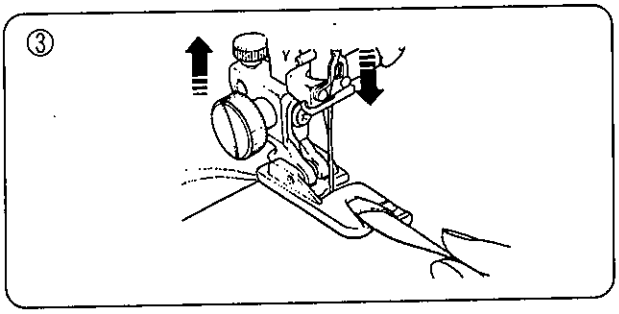


①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で三つ折りにします。

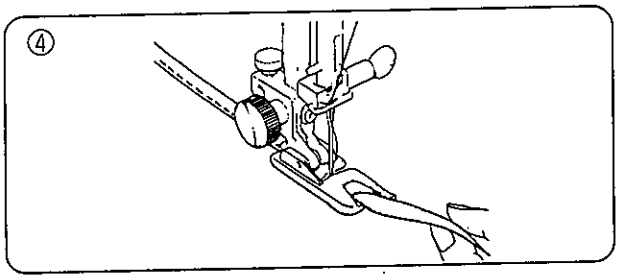
※折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと縫いやすくなります。



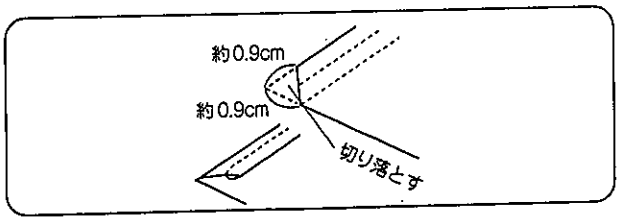
②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2cm縫います。



③上下停針キーを押して針をさし、押え上げをあげて三つ折りの部分を開いて布端を押えのうずの中に巻きこみます。



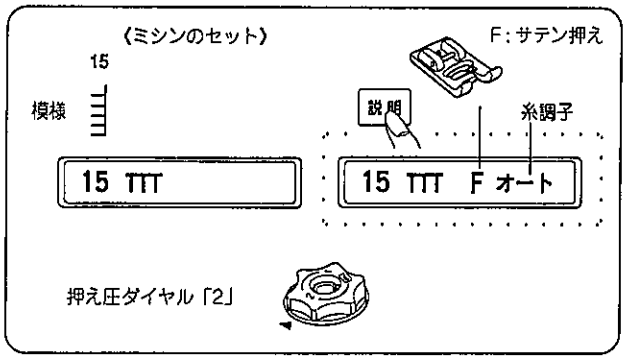
④押え上げをさげ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ちあげながら縫います。

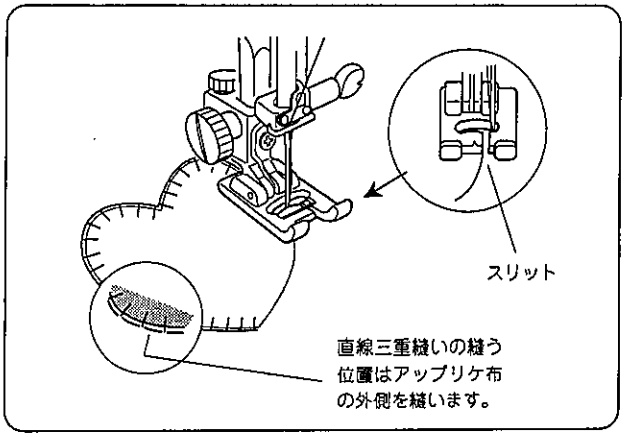


★布端のしまつ

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

●アップリケ

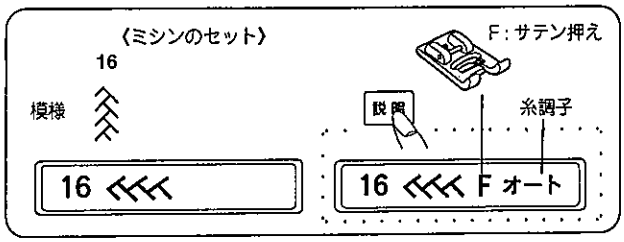


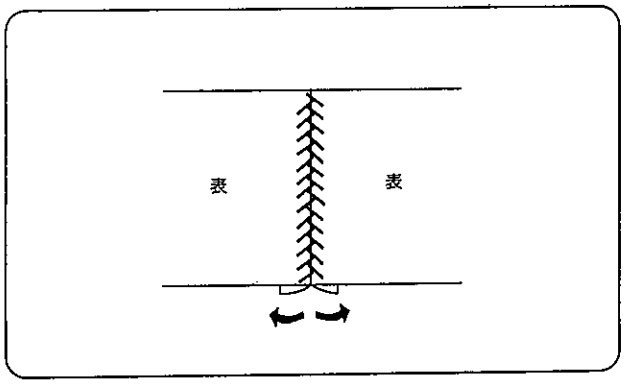


アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケする布の輪郭をF押えのスリットに合わせて縫います。

※急角度のところや向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。
※縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

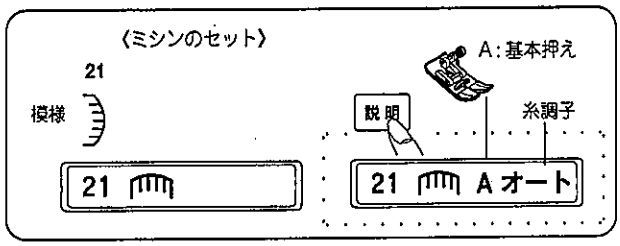
●パッチワーク



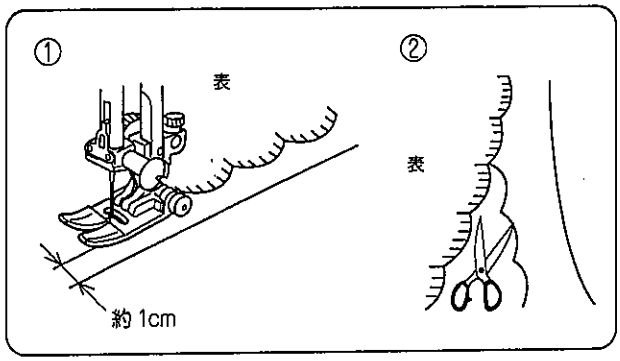


布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろをわります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

●スカラップ



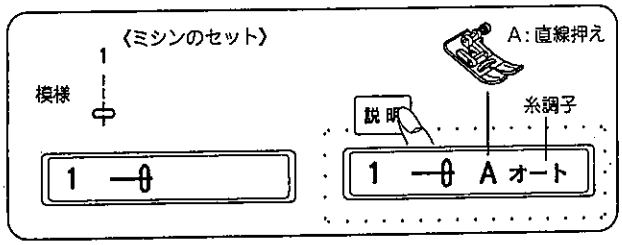
※模様は、21 、22 が使えます。

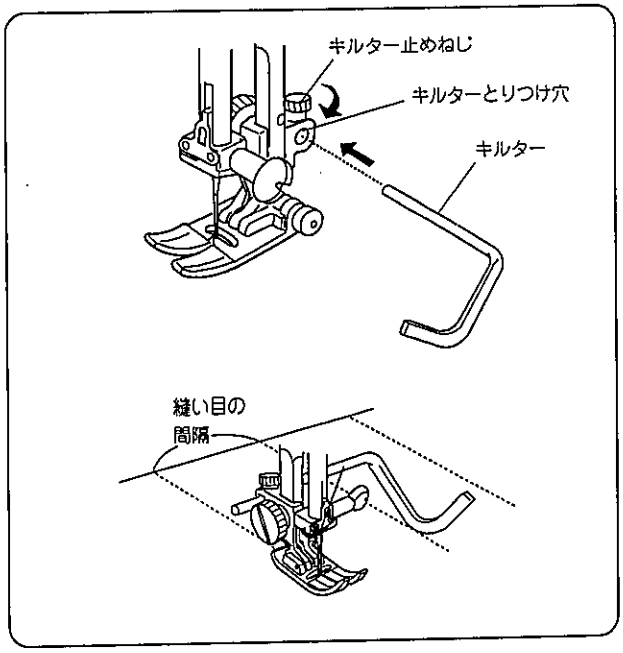


①布の表から、布端を 1cm くらい残して縫います。

②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●キルティング

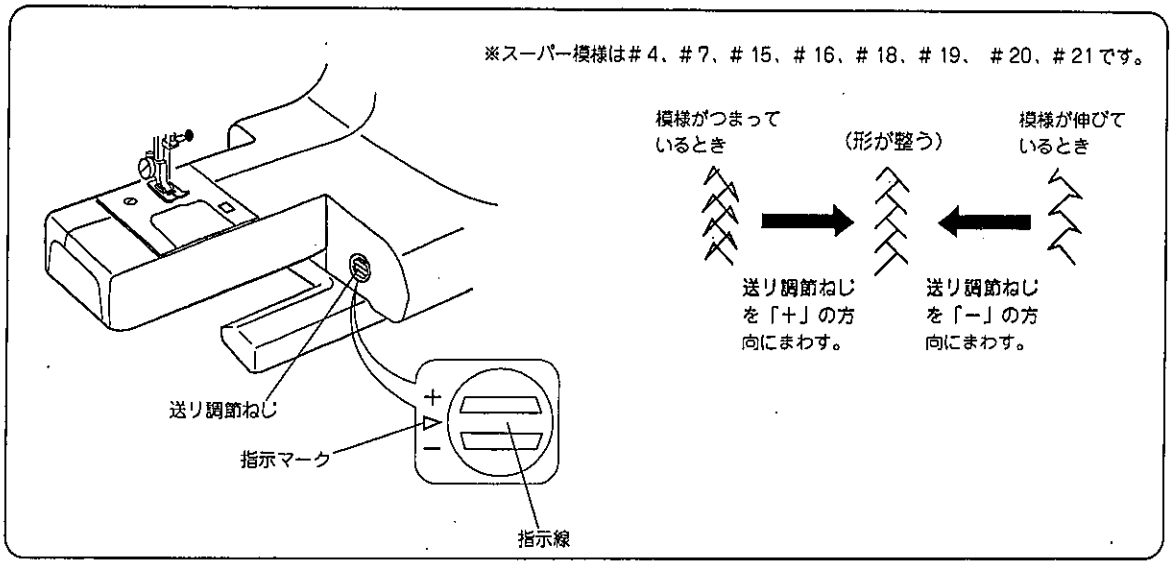




キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、縫い目の間隔に合わせて、止めねじをしめます。

※キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●スーパー模様の形の整え方

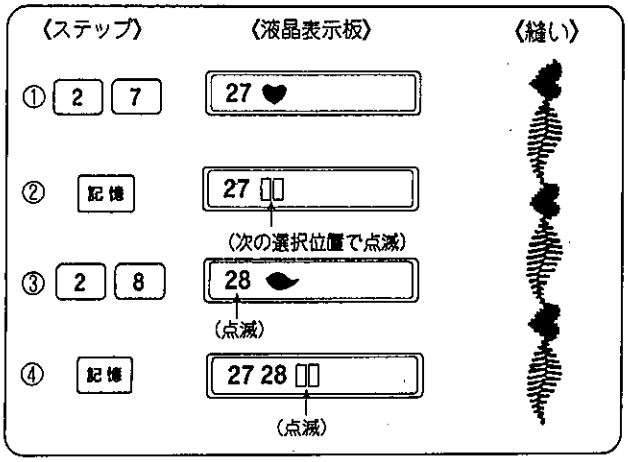


布の種類、厚さ、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

●プログラム縫い(模様の組み合わせ「記憶」縫い)

★連続模様縫いの例 (模様＃27・＃28)



"記憶させた模様を、繰り返し縫います。"

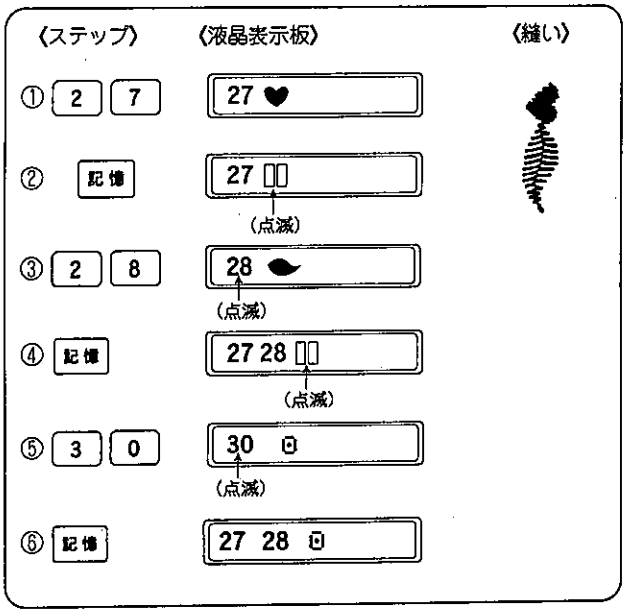
①模様＃27を選びます。

②模様＃27を記憶します。

③模様＃28を選びます。

④模様＃28を記憶します。
※点滅しますが、そのままスタートしてください。

★止め縫い「模様＃30」を使った模様縫いの例 (模様＃27・＃28)



"記憶させた数の模様を縫って自動的に止まります。"

①模様＃27を選びます。

②模様＃27を記憶します。

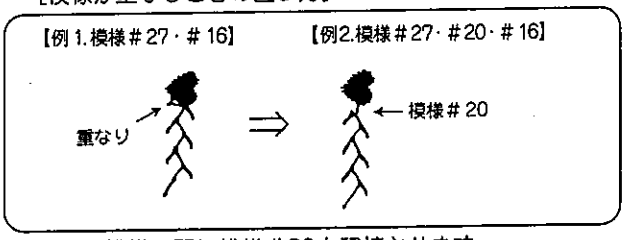
③模様＃28を選びます。

④模様＃28を記憶します。

⑤模様＃30を選びます。

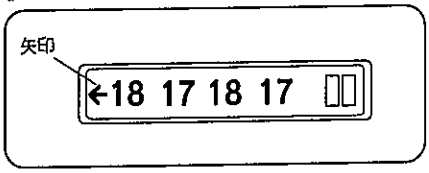
⑥模様＃30を記憶します。

[模様が重なるときの直し方]



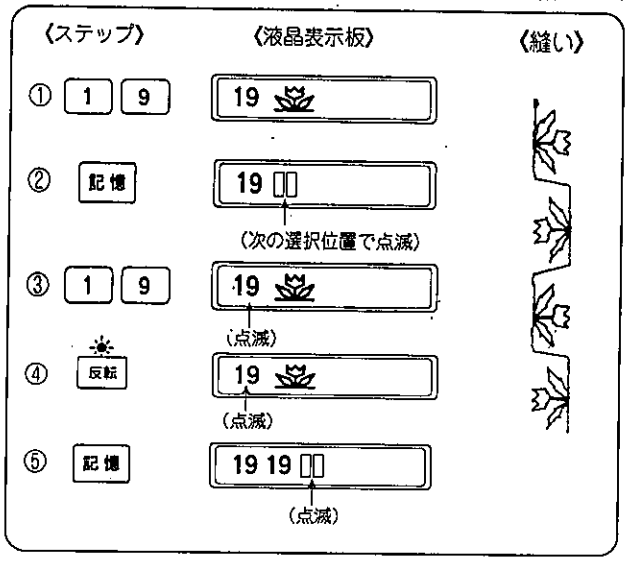
重なる模様の周に模様＃20を記憶させます。
※模様＃16は3つ記憶してあります。

【画面表示について】



5個以上記憶すると、先頭に矢印が表示されます。模様＃18の前にも模様が記憶されていることを示します。

★反転キーを使った連続模様縫いの例（模様＃19）



①模様＃19を選びます。

②模様＃19を記憶します。

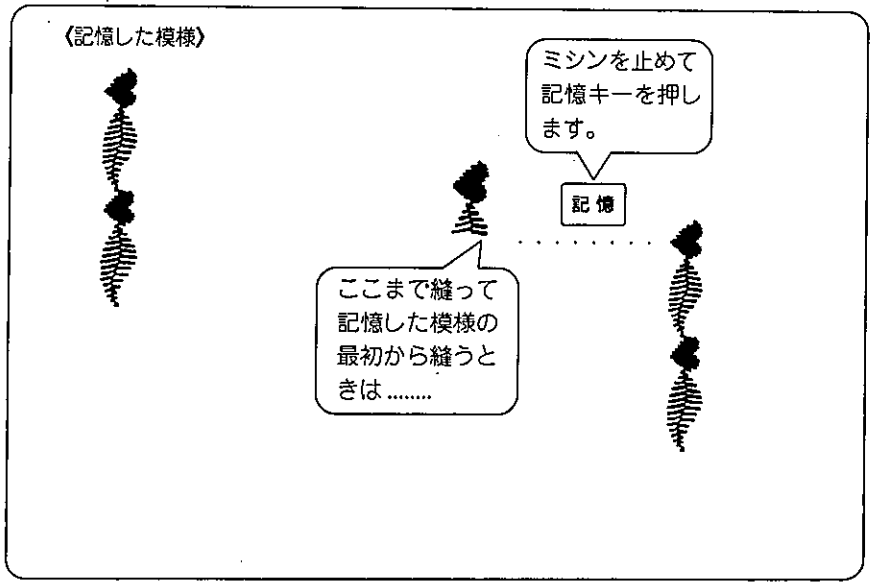
③模様＃19を選びます。

④反転キーを押します。

⑤更に、記憶キーを押します。

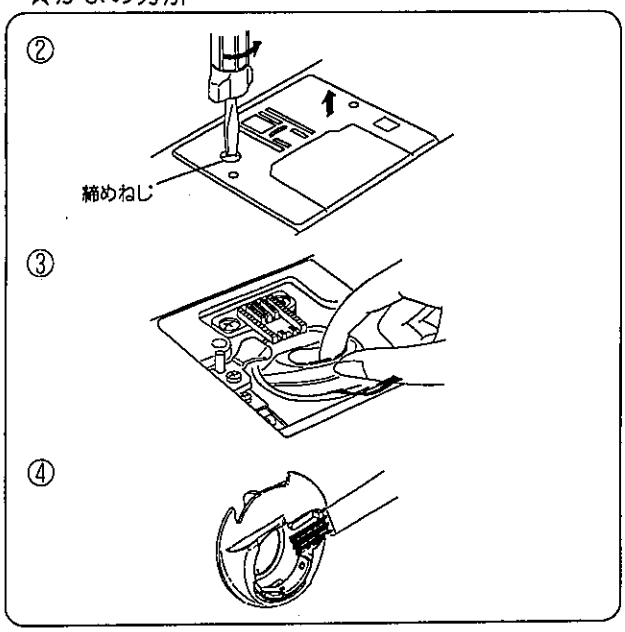
※点滅しますが、そのままスタートしてください。

★連続模様縫いを途中でやめ先頭頭出しするとき



●ミシンの手入れ

★かまの分解

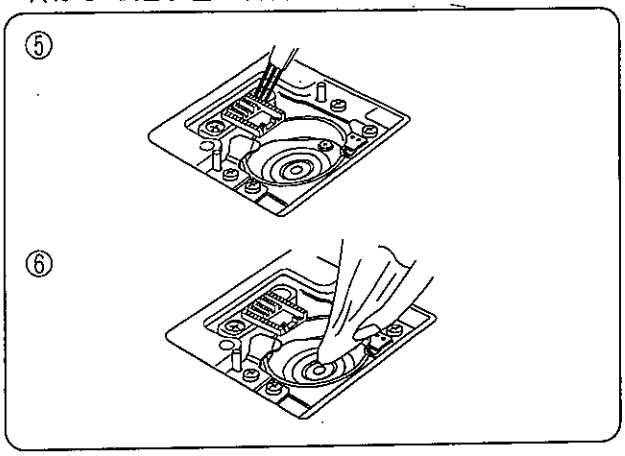


※手入れのときには、上下停針キーを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
※このミシンは、注油の必要がありません。

◎使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

①針と押えをはずします。
②針板締めねじをはずし、針板をはずします。
③ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。
④内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

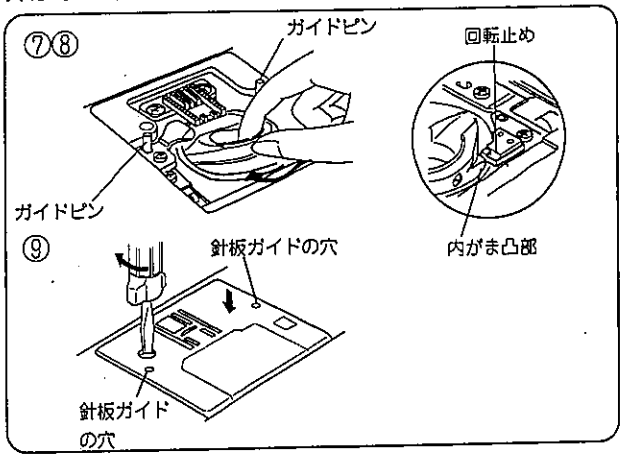
★かまと送り歯の掃除



⑤送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
⑥外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

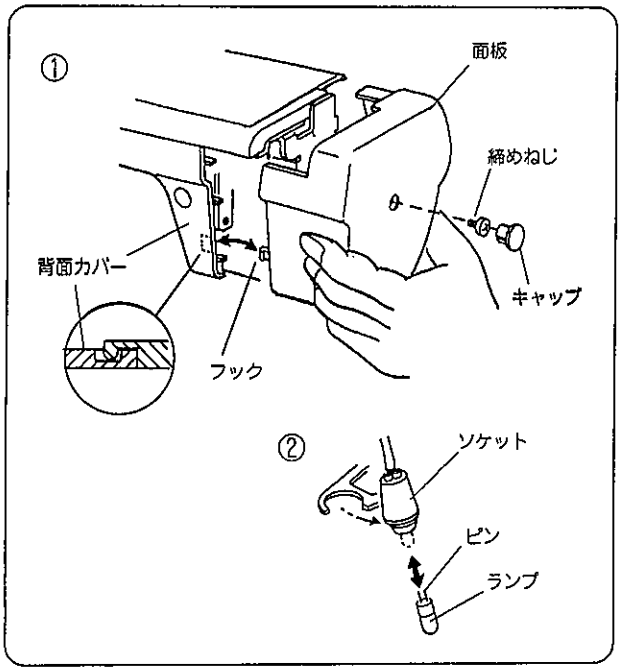
★かまの組立て



⑦内がまをさしこみます。
⑧内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
⑨ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、締めねじをしめます。

※手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

●ランプのとりかえ方



※ランプをとりかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

《はずし方》

①キャップと締めねじを外し、面板を取り外します。（面板を外すときには、背面カバーよりフックを外しながら取り外してください。）

②ランプソケットを外して、ランプをそっと引き抜きます。

※ランプは冷えてから外してください。

《つけ方》

①ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。

②ランプソケットを取付け、面板を締めねじで取付けて，キャップをします。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6．縫いおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10 ページ参照 16 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 13 ページ参照 13 ページ参照 19 ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	9 ページ参照 40 ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．縫いおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	19 ページ参照 19 ページ参照 13 ページ参照 19 ページ参照
縫い目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	19 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照 針を交換する
縫い目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべて縫い目があらすぎる。 5．押え圧が合っていない。 ＊特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	16 ページ参照 9,10 ページ参照 19 ページ参照 縫い目を細かくする。 17 ページ参照
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．縫い目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	40 ページ参照 縫い目をあらくする 17 ページ参照
縫い目に溝ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	16 ページ参照 19 ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラを接続したままでスタート・ストップキーを押している。	5 ページ参照 40 ページ参照 8 ページ参照 5 ページ参照
オートボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、縫い目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	25 ページ参照 23 ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。 3．電源投入時、ステッピングモータからわずかな共鳴音がでる。	40 ページ参照 40 ページ参照 異常ではありません。
縫いずれがおこる。	1．押え圧が、合っていない。	17 ページ参照

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理のつきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。

ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。

2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。

3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。

4）お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。

5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけ下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）
（受付 月曜日～金曜日
9時～12時
13時～17時）

仕様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	50W / ランプ3W
外形寸法	幅41cmX奥行19cmX高さ29cm
重量	8.6kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
縫速度	毎分700回転 コントローラー使用時（毎分820回転）

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104-0031 東京都中央区京橋3－1－1 ☎03(3277)2361~2

840-800-420